

令和6年度
教育に関する事務の点検・評価報告書

令和7年8月

亀山市教育委員会

目

次

| | | |
|---|-----------------|-----|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 点検・評価の対象となる事務 | 2 |
| 3 | 教育委員会事務局による自己評価 | 5 |
| 4 | 学識経験者による評価 | 5 3 |
| 5 | 課題と今後の取組 | 6 5 |

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことが定められています。

亀山市教育委員会では、令和6年度における市の施策評価対象事業及び事務事業評価対象事業について、事務局において評価を行い、その内容について学識経験者2名から意見をいただき、課題と今後の取組について、「令和6年度教育に関する事務の点検・評価報告書」としてまとめました。

【参考】

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象となる事務

(1) 対象事務及び評価

点検及び評価の対象は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条各号の規定のうち、「亀山市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例」に規定された事務（「スポーツに関すること」及び「文化に関すること」）を除く事務です。また、「文化財の保護に関すること」、「歴史博物館に関すること」、「市立幼稚園の管理運営に関すること」等については、補助執行により市長部局において実施していますので、対象外とします。

評価については、第2次亀山市総合計画後期基本計画実施計画において教育委員会事務局が所管する基本施策及びその施策の方向に伴う事業のうち令和6年度における取組状況などについて、実施しました。

【対象の基本施策】

- ・ 学びによる生きがいの創出
（基本施策の大綱：健康で生きがいを持てる暮らしの充実）
- ・ 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実
（基本施策の大綱：子育てと子どもの成長を支える環境の充実）

【対象の主要事業】

| 施策の方向 | 事業名 |
|-------------------------|---------------------|
| 地域課題の解決に生かせる学びの展開 | 地域の学び推進事業 |
| 学びを支える温かさあふれる学校づくり | 放課後子ども教室推進事業 |
| 学びの環境の充実 | 中学校デリバリー給食実施事業 |
| | 中学校全員喫食制給食実施事業 |
| 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | G I G Aスクール構想推進事業 |
| | 英語教育推進事業 |
| | 個の学び支援事業（小学校） |
| 一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | 個の学び支援事業（中学校） |
| | 学力向上推進事業 |
| | 学校図書館支援事業 |
| | 生活困窮者自立支援事業（学習支援事業） |
| | 少人数教育推進事業 |
| | 校務支援システム事業 |

【対象の標準事業】

| 施策の方向 | 事業名 |
|-------------------------|-------------------|
| 学びを支える温かさあふれる学校づくり | 特色ある学校づくり事業（小学校費） |
| | 特色ある学校づくり事業（中学校費） |
| | コミュニティスクール推進事業 |
| 学びの環境の充実 | 施設整備費（小学校費） |
| | 地場農畜産物利用推進事業 |
| 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | 体育・文化活動支援事業（小学校費） |
| | 体育・文化活動支援事業（中学校費） |
| | 中学校体験活動支援事業 |
| | 幼児教育推進事業 |
| | 教職員研修事業 |
| | 道徳・人権教育推進事業 |
| 家庭・地域の教育力の向上 | 子育て学習展開事業 |
| 一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | 適応指導教室事業 |
| | 生徒指導充実事業 |
| | 特別支援教育推進事業 |
| | 外国人児童生徒教育支援事業 |
| 青少年の健全育成と青少年活動の促進 | 青少年健全育成費 |
| | 青少年総合支援センター費 |
| | 二十歳の集い開催費 |
| 市民活動の活性化と協働の推進 | 婦人団体育成費 |

（２）点検・評価に使用するシート

点検・評価において使用するシートは、市の行政評価との整合を図り、施策評価シート及び事務事業評価シートを活用します。

(3) 評価基準

①施策評価シートにおける総合判定及び個別判定の基準は次のとおりです。

- A … 順調に進んでいる
- B … まずまず進んでいる
- C … あまり進んでいない
- D … 進んでいない

②事務事業評価シートにおける活動及び成果の判定の評価基準は次のとおりです。

・成果評価

- A … 十分な成果を得た
- B … まずまず成果を得た
- C … あまり成果を得られなかった
- D … 成果を得られなかった

*評価分類B 1の事業（事業完了時など、一定期間後に効果が出る事業のうち実施中の段階の事業）の成果評価は下記のとおりです。

- A … 計画どおり進んでいる
- B … 概ね計画どおり進んでいる
- C … あまり進んでいない
- D … ほとんど進んでいない

3 教育委員会事務局による自己評価

令和6年度における第2次亀山市総合計画後期基本計画に基づく基本施策及びその施策の方向に伴う事業について、点検・評価を実施した結果は次のとおりです。

(1) 第2次亀山市総合計画施策体系図

(2) 施策評価 2件

(3) 事務事業評価

実施計画/R4・5・6・7年度 主要事業13件

令和6年度決算における評価 標準事業20件

(1) 第2次亀山市総合計画 後期基本計画施策体系図

施策の大綱

基本施策

施策の方向

快適さを支える生活基盤の向上

魅力的な都市空間の形成

- 計画的な土地利用の推進
- 活力ある市街地の形成
- 安らぎのある都市の形成

住環境の向上

- 住宅セーフティネットの確保
- 安全・快適な住環境の整備
- 空き家・空き地の対策・利活用

上下水道の充実

- 安全でおいしい水の安定供給
- 生活排水対策の推進
- 上下水道事業の健全経営

道路の保全・整備

- 幹線道路の整備
- 生活道路の充実
- 安全に配慮した道路施設の充実
- 道路の適切な維持管理

地域公共交通の充実

- 地域公共交通ネットワークの強化
- 公共交通機関の利便性向上と利用促進

防災・減災対策の強化

- 危機管理体制の強化
- 防災環境の充実
- 自助・共助を基本とした防災対策の推進
- 災害に強いまちづくりの推進

消防力・地域安全の充実

- 消防体制の充実強化
- 防火対策の強化
- 救命率の向上
- 防犯・交通安全対策の推進

脱炭素社会の実現に向けた取り組みの推進と循環型社会の構築

- 高度な低炭素社会の構築
- 生活環境の保全
- ごみの減量化とリサイクルの推進
- 廃棄物処理施設の適正管理

自然との共生

- 鈴鹿川等源流域の保全・継承
- 森林・里山・農地の保全
- 多様な生態系の保全
- 環境教育の推進

歴史文化を生かしたまちづくりの推進

- 東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上
- 関宿重要伝統的建造物群保存地区の保護の推進
- 鈴鹿関跡等の文化財の保存と活用
- 歴史資料の公開・活用による地域や学校との連携

施策の大綱

基本施策

施策の方向

健康で生きがいを持てる暮らしの充実

健康づくりの推進と地域医療の充実

- 「健康都市」の推進
- 健康な暮らしの支援
- 疾病予防と重症化予防の推進
- 地域医療体制の強化
- 感染症対策の推進
- 医療センターの機能強化と経営健全化
- 安心できる公的医療保険制度の運営

地域福祉力の向上

- 地域福祉を支える人と組織の育成
- 安心して福祉サービスを利用できる環境づくり
- 地域での助け合い・支え合いの促進
- 生活困窮者の支援と自立の促進

高齢者の地域生活支援の充実

- 地域包括ケアシステムの推進
- 介護予防の推進
- 高齢者の生活と生きがいづくりの支援
- 認知症高齢者等対策の推進

障がい者の自立と社会参加の促進

- 障がい者の自立支援
- 障がい者の福祉サービスの充実
- 誰もが暮らしやすい社会の実現に向けた取り組み

学びによる生きがいの創出

- 地域課題の解決に生かせる学びの展開
- 新図書館を核とした読書活動・市民活動の推進
- 誰もが学べる環境づくり

文化芸術の推進

- 文化芸術施策の推進
- 文化芸術の拠点づくり
- 文化芸術活動の活性化

スポーツの推進

- スポーツ活動の推進
- スポーツ団体の育成と競技力の向上
- スポーツ文化の浸透
- スポーツの拠点づくり

施策の大綱

基本施策

施策の方向

交通拠点性を生かした都市活力の向上

企業活動の促進・働く場の充実

- 多様な産業集積の促進
- 既存企業の活性化
- 雇用の創出と働きやすい環境づくり
- 企業との連携によるまちづくりの推進

地域に根ざした商工業の活性化

- にぎわいのある商業地域の形成
- 多様な主体による一体的な商工業活性化の促進
- 事業者の経営安定化と事業活動の活性化
- 新たなビジネスの創出

農林業の振興

- 農業経営体の育成・確保
- 農業経営の安定化
- 中山間地域の活性化・魅力化
- 林業経営の安定化

まちづくり観光の活性化

- 地域資源を生かした持続可能な観光政策の推進
- 観光プロモーションの強化
- まちづくり観光を支える人材と組織の育成・確保
- 快適に滞在できる受け入れ環境の充実

広域的な交通拠点性の強化

- リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進
- 広域道路網の強化

子育てと子どもの成長を支える環境の充実

子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実

- 学びを支える温かさあふれる学校づくり
- 学びの環境の充実
- 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成
- 家庭・地域の教育力の向上
- 一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進
- 青少年の健全育成と青少年活動の促進

安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進

- 就学前教育・保育施設の受入機能の強化
- 魅力ある幼児教育・保育の提供
- 子育て世代が孤立しない環境づくり
- 子育て世帯の自立した生活への支援
- 子育ての希望をつなぐ支援の充実
- 子どもの居場所づくりときめ細かな子育て支援の推進

施策の大綱

市民力・地域力の活性化

基本施策

自立した地域まちづくり活動の促進

施策の方向

地域まちづくり活動の活性化

地域まちづくり活動拠点施設の充実

地域まちづくり協議会の組織強化

地域まちづくり協議会との連携強化

市民参画・交流活動の促進と協働の推進

市民活動の活性化と協働の推進

市民交流・地域間交流の促進

広報・広聴の充実

移住・定住の促進

戦略的なシテプロモーションの推進

若者・子育て世帯の定住促進

移住交流の促進

人権の尊重とダイバーシティ社会の推進

人権を尊重し合えるまちづくりの推進

男女共同参画の推進

多文化共生の推進

行政経営

基本施策

組織力の強化と働き方改革の推進

施策の方向

地方創生を推進する職員の能力の向上と人材育成の強化

行政課題に的確に対応する組織体制とマネジメント機能の強化

市役所働き方改革の推進

財産・情報の適正な管理・活用

行政情報の適切な管理

公有財産の効率的・効果的な活用

新庁舎整備の推進

行政DXの推進

行政DXの推進基盤の整備

行政DXによる市民サービスの向上

持続性を保つ健全な財政運営

多様な手法による安定した財源の確保

財源の有効活用

企業会計及び外郭団体の自立した経営の推進

地方分権と広域連携の推進

(2) 施策評価シート

| | 基本施策の大綱 | 基本施策 |
|---|---------------------|-------------------------|
| 2 | 健康で生きがいを持てる暮らしの充実 | 学びによる生きがいの創出 |
| 4 | 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 |

■成果指標

| 指標 | 単位 | 現状値 | | 実績値 | | | | 目標値 |
|----|-------------------|-----|--------|-----|--------|---------|---------|---------|
| | | | | R4 | R5 | R6 | R7 | |
| 1 | デジタル技術を活用した講座の開催数 | 回 | 8 | R2 | 1 | 6 | 15 | 20 |
| 2 | 図書館入館者数 | 人 | 61,500 | R2 | 90,583 | 276,338 | 277,347 | 230,000 |
| 3 | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | |

■市民アンケート調査

| 項目 | | 現状値 [R2] | 1次 [R5] | 2次 [R6] | 市民アンケートの考察 |
|----|----------------------|---------------|------------|------------|--|
| 1 | 生涯学習講座が充実している | 重要度 0.81 | 0.85 | 0.96 | 生涯学習講座の充実に係る満足度以外、いずれの調査項目においても令和2年度調査時よりも重要度・満足度が向上している。コロナ禍を経験したことによる学びへの意識の変容と新図書館の開館が、市民の生涯学習に対する意識の高まりにつながっているものと考えられる。 |
| | | 満足度 0.15 | 0.23 | 0.15 | |
| 2 | 公民館などの施設や行事内容が充実している | 重要度 0.68 | 0.75 | 0.70 | |
| | | 満足度 0.04 | 0.07 | 0.10 | |
| 3 | 図書館が充実している | 重要度 0.91 | 1.07 | 1.04 | |
| | | 満足度 ▲ 0.14 | 0.90 | 0.78 | |
| 4 | | 重要度 | | | |
| | | 満足度 | | | |

■施策推進 [施策の方向]

| 施策の方向 | 施策推進に関する考察 |
|-------------------------|--|
| ① 地域課題の解決に生かせる学びの展開 | 第2期かめやま人キャンパスを開催するとともに、第1期かめやま人認定者を支援し、人材育成を展開している。今後も更なる学びの循環による人材育成を展開していく。 |
| ② 新図書館を核とした読書活動・市民活動の推進 | ボランティア等の協力を得て、市民の読書活動を推進した。きめ細やかな図書館サービスの提供と環境整備により、交流の場となる、利用しやすい図書館づくりを推進した。 |
| ③ 誰もが学べる環境づくり | 学びの情報を一元化した学びのガイドブックの発行や中央公民館講座等の開催により、市民に学びの機会を提供した。今後も学びの機会の充実を図っていく。 |
| ④ | |
| ⑤ | |
| ⑥ | |
| ⑦ | |

総合評価

地域課題の解決に生かせる学びの展開・誰もが学べる環境づくりでは、中央公民館活動事業において、地域のニーズに沿った講座を実施することにより、市民の自発的な学びにつなげることができた。また、第2期かめやま人キャンパス展開事業を起点として、YouTube Live などデジタル技術を活用した講座を実施したことにより、学びの環境の充実につなげられ、誰もが参加できる学びの場とすることができたほか、地域のデジタル化の促進にも寄与できた。さらに、第1期かめやま人認定者に対して、フォローアップ講座を実施し、中央公民館講座等の講師や行政委員として登用するなどの支援等を行い、地域課題の解決に取り組む人材確保につなげることができた。新図書館を核とした読書活動・市民活動の推進では、図書館については、令和6年度においても、図書館ボランティアとの協働による各種行事をはじめ様々なイベントの開催等により入館者数が27万人を超え、令和6年10月には入館者数50万人達成するなど、後期基本計画における成果指標に設定した年間利用者数23万人を大きく上回っており、「学びの場からつながる場へ」を基本理念とした知の拠点として、市民交流の場となっている。また、市内小中学校と連携し、各学校から市立図書館の本を借りることができる「ほんくる。(相互貸借)」による読書活動の推進などにより、子どもたちの読書習慣の定着につなげることができた。

A

順調に進んだ

今後の展開方針

中央公民館講座においては、地域のニーズに沿った講座として内容の充実を図るため、地域まちづくり協議会等との連携も行いつつ、オンラインでの受講が可能な各種講座を実施するなど、身近な地域で誰もが学べる環境づくりを進めていく。また、「かめやま人」の活動のさらなる支援のため、中央公民館や行政関連部署・各関係団体との連携を図り、人材の発掘・確保に取り組む。一方、図書館における学習や調査・研究の援助等を行うレファレンスについて、図書館スタッフのスキル向上や情報の蓄積に努めるとともに、地域読書活動拠点の取り組みの推進に向け、地域や福祉施設等との継続的な意見交換を行い、具体的な方向性を整理していく。さらに、健康文化の向上に向け、読書活動自体が持つストレス軽減効果の発揮や、読書会や各種イベントの開催等を通じた世代・分野を超えた交流の場の提供に努める。

令和6年度 施策評価シート

| | | |
|-----------|-------------------------------------|-----------|
| 施策の大綱 | 4. 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 評価担当者 |
| 基本施策 | (1) 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | 教育部長 大平 守 |
| 目指す姿 | 子どもたちが、豊かな学びのもと、未来を創るための力を身に付けています。 | |
| 関連する分野別計画 | 亀山市学校教育ビジョン | |

■ SDGs

| | |
|-------------------|---|
| 基本施策に関連するSDGsのゴール |    |
| SDGs推進の考察 | 個の学び支援事業や学習支援事業など「誰も取り残さない学びの保証」に直結する取り組みを進め、均質な学びの提供に努めていることは、公正な社会構築の起点となることが期待される。また、地域全体が主体者となる「地域学校協働活動」を目指し、地域における子どもの居場所づくりや学校運営協議会の展開を図ることは、家庭・地域とのパートナーシップを深めることにつながるものである。 |

■ 関連する主な事業

(単位:千円)

| 施策の方向 | 事業名 | 上段: 予算額 | 実績・成果等 |
|-------|---------------------|---------|--|
| | | 下段: 決算額 | |
| ① | 放課後子ども教室推進事業 | 13,339 | 全小学校で放課後子ども教室を実施することができた。地域における子どもの体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所をつくることができた。 |
| | | 12,076 | |
| ② | 中学校デリバリー給食実施事業 | 47,515 | 年間177回の実施により、必要な回数の給食を実施することができた。生徒対象のアンケートを実施し、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図った。 |
| | | 47,514 | |
| ② | 中学校全員喫食制給食実施事業 | 15,030 | 亀山市中学校給食調理等業務委託業者選定委員会要綱を制定し、業者選定を行った。また、2中学校へ配膳室や給食用エレベーター等必要設備の設置に係る設計業務を完了した。 |
| | | 14,056 | |
| ③ | 学力向上推進事業 | 1,550 | 教職員の授業力向上を図る研修会を行い、プリント等で児童生徒への学習理解を深めた。運動部活動支援員の登録により、教職員の研究等ができた。 |
| | | 1,228 | |
| ③ | 学校図書館支援事業 | 13,540 | 図書館活用アドバイザーの配置により、児童生徒の読書習慣の確立や読書の質の向上につながる取り組みができた。園や小中学校で、親子読書ラリーや読書チャレンジの取り組みも実施した。 |
| | | 12,977 | |
| ③ | GIGAスクール構想推進事業 | 56,981 | 学校の情報教育環境を整備できた。家庭学習でのタブレット端末の活用が向上した。情報モラルに関する授業の指導・助言を行った。児童生徒の情報活用能力が向上した。 |
| | | 56,459 | |
| ③ | 英語教育推進事業 | 31,874 | ALTの配置により、児童生徒にネイティブな英語に触れる機会を設定することができた。英語キャンプを実施した。英語外部試験等を実施し結果を分析し、授業改善を図った。 |
| | | 29,995 | |
| ⑤ | 個の学び支援事業(小学校) | 77,749 | 小学校において、介助員、看護師、生活支援員、学習生活相談員を継続配置し、児童の生活面・活動面及び学習面において必要な支援を行うことができた。 |
| | | 76,217 | |
| ⑤ | 個の学び支援事業(中学校) | 18,489 | 中学校において、介助員、学習生活相談員を適切に配置し、特別な支援や多様な支援が必要な生徒に対し、丁寧に対応することができた。 |
| | | 18,166 | |
| ⑤ | 生活困窮者自立支援事業(学習支援事業) | 2,454 | 定期的な学習教室の開催や不定期のテスト対策教室の開催等により、児童生徒の学習環境が整い学習習慣の確立と学習内容の定着につながった。 |
| | | 1,857 | |
| ⑤ | 少人数教育推進事業 | 9,454 | 少人数教育推進教員の配置により、習熟度別やチーム・ティーチング、個別支援等、児童生徒の状況に応じた指導の充実を図ることができた。 |
| | | 9,367 | |
| ⑤ | 校務支援システム事業 | 3,806 | システムの機能を活用することで、会議や打ち合わせの回数削減につながった。また、システムを有効活用するために学校の実態に応じて研修会を実施できた。 |
| | | 3,806 | |
| | ※標準事業は別紙参照 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

太字: 主要事業

■ 成果指標

| 指標 | 単位 | 現状値 | | 実績値 | | | | 目標値 |
|----|---|-----|------|-----|------|------|------|------|
| | | | | R4 | R5 | R6 | R7 | |
| 1 | コミュニティ・スクールだより等を作成し、地域への情報発信を年間3回以上行っている学校の数 | 校 | 8 | R2 | 11 | 13 | 14 | 14 |
| 2 | 学校評価アンケートにおける授業理解度(小学校) | % | 90.0 | R3 | 90.0 | 90.2 | 90.8 | 92.0 |
| 3 | 学校評価アンケートにおける授業理解度(中学校) | % | 85.8 | R3 | 87.2 | 88.3 | 86.4 | 89.0 |
| 4 | 「かめやまお茶の間10選(実践)」アンケートにおける取り組んだと回答した保護者割合 | % | 52.0 | R2 | 66.0 | 64.7 | 62.2 | 70.0 |
| 5 | 学校評価アンケートにおける学校満足度(小学校) | % | 93.4 | R3 | 91.1 | 92.4 | 90.6 | 95.0 |
| 6 | 学校評価アンケートにおける学校満足度(中学校) | % | 91.2 | R3 | 94.1 | 93.1 | 94.2 | 95.0 |
| 7 | 「亀山っ子」市民宣言についてのアンケートにおける目指す子ども像について実感があると回答した割合 | % | 24.4 | R2 | 28.9 | 31.1 | 28.9 | 30.0 |
| 8 | | | | | | | | |

■ 市民アンケート調査

| 項目 | 現状値 [R2] | 1次 [R5] | 2次 [R6] | 市民アンケートの考察 |
|------------------------|----------|---------|---------|---|
| 1 小中学校の施設や設備が整っている | 重要度 | 1.40 | 1.46 | 各項目の重要度は横ばいもしくは上昇となっている一方で、満足度は横ばいもしくは若干下降している。保護者層を中心として多様な見方がある中で、本市の教育に関するハード面ソフト面の取り組みに対する要求レベルの上昇と捉えることができる。 |
| | 満足度 | 0.43 | 0.32 | |
| 2 学校教育の内容や取組が充実している | 重要度 | 1.42 | 1.51 | |
| | 満足度 | 0.26 | 0.24 | |
| 3 青少年を見守り応援する活動が行われている | 重要度 | 1.34 | 1.38 | |
| | 満足度 | 0.52 | 0.43 | |
| 4 | 重要度 | | | |
| | 満足度 | | | |

■ 施策推進 [施策の方向]

| 施策の方向 | 施策推進に関する考察 |
|---------------------------|---|
| ① 学びを支える温かさあふれる学校づくり | 学校運営協議会を核として、地域と協働し学校づくりをすすめた。今後も地域や学校の特性をいかし、安心して学べる環境を整えていく。 |
| ② 学びの環境の充実 | 中学校全員喫食給食の実施に向け配膳室等整備工事の設計を行ったほか、長寿化計画を基にその整備内容等も検討した。今後も学びの環境整備の着実な進捗を図っていく。 |
| ③ 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | 児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業改善を図った。今後も子どもたちの学力向上と社会的自立を目指した取り組みを推進していく。 |
| ④ 家庭・地域の教育力の向上 | 「かめやまお茶の間10選(実践)」の取り組みにより、家庭教育の重要性について意識啓発を図った。今後も家庭・地域の教育力の向上を図っていく。 |
| ⑤ 一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | 子どもの特性や事情に配慮した学びの機会の確保に努めた。今後も一人ひとりの悩み等に配慮したきめ細かな指導を行っていく。 |
| ⑥ 青少年の健全育成と青少年活動の促進 | 地域・福祉・教育の連携による青少年の自立支援や見守り体制の強化に取り組んだ。今後も関係機関等との連携を強化し、青少年の自立支援や見守り体制の強化を図っていく。 |
| ⑦ | |

総合評価

温かさあふれる学校づくりとして、小中学校全てに設置される学校運営協議会を中心に学校と地域との連携・協働が進められ、小規模な学校の一層の活性化に向け小規模特認校の取り組みを進めるなど地域や学校の特色をいかした学校づくりが進められた。休日の中学校部活動の地域展開等に関しては、国などの動向も見据えつつ、分野横断的に庁内協議を行った。環境面では、今後の学校施設の適正管理と計画的な修繕や改修等を実施する目安となる計画を策定できたほか、民間の給食センターの活用による中学校全員喫食給食の実現に向けた受入環境の整備に向け、2中学校への配膳室や給食用エレベーター等の設置に係る設計業務を完了した。子どもの育成については、各学校において、授業理解度や学校満足度について学校間において若干の差が見られたものの、児童生徒が確かな学力を身に付け、新しい時代に必要とされる生きる力を身に付けられるよう、保幼認小連携による切れ目のない教育を実践するとともに、一人一台端末の活用等を通じ、児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できるよう授業改善に努めた。「かめやまお茶の間10選(実践)」の継続的な取り組みは、家庭のみならず地域全体での子どもの育みや教育力の向上につながりつつある。きめ細かな教育の推進では、介助員、校内教育支援センター支援員等の配置、全小中学校へ「校内ふれあい教室」の設置や亀っ子サポートへの委託等による不登校児童生徒への支援体制の強化、校務支援システムの活用等により、子どもの特性や事情に配慮した個別最適な学びの機会の確保につなげた。青少年の健全育成と青少年活動の促進では、見守り活動における市民満足度はやや減少傾向となっているが、市民団体や地域等の協力を得ながら、体験活動の場の提供や支援に努めた。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

学校運営協議会を中心とした取り組みが続けられるよう、様々な立場の方々が進めることができる組織としていくため、引き続き地域住民への理解啓発に取り組むとともに、地域学校協働活動に関する目標設定や活動等の検討を行う。中学校部活動の地域展開等については、近隣市の動向を注視し、早期の実現に向け関係部署等と取り組みを進める。また、長寿化改修等では、詳細な建築物の調査に加え、市の財政状況を踏まえた実施計画の立案や、特別教室及び体育館の空調設備の整備等も併せて検討していく。一方、授業力や生徒指導力を身につけた教職員のさらなる育成や児童生徒の基礎的な学力・体力の定着に向けた取り組みを一層充実・推進していく。加えて、保幼認小・中学校への接続や連携も継続しながら、子どもたちの社会的自立を目指した取り組みも推進していく。さらに、児童生徒が抱える課題の多様化・複合化が進む中、今後も一人ひとりの悩みや背景等への配慮や福祉部門との連携により、きめ細かな指導・支援を行っていく。

■関連する主な事業

(単位:千円)

| 施策の方向 | 事業名 | 上段:予算額 | 実績・成果等 |
|-------|-------------------|---------------------------|--|
| | | 下段:決算額 | |
| ① | 特色ある学校づくり事業(小学校費) | 2,990 ----- 2,959 | 学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上など多岐にわたる内容の取り組みを進められた。 |
| ① | 特色ある学校づくり事業(中学校費) | 740 ----- 697 | 学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上など多岐にわたる内容の取り組みを進められた。 |
| ① | コミュニティスクール推進事業 | 897 ----- 820 | 定期的に学校運営協議会を開催し、たよりを発行することで、活動内容等を周知することができた。 |
| ② | 施設整備費(小学校費) | 25,867 ----- 23,505 | 関小学校トイレの洋式化改修や亀山西小学校防犯カメラの改修等、予定していた工事を執行し、学校生活環境の向上を図った。 |
| ② | 地場農畜産物利用推進事業 | 306 ----- 263 | 市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」を22回実施した。また、給食調理員対象に衛生管理と調理実習の研修会を2回実施し、研修後は作業工程や調理器具の点検を行い、各学校現場での調理工程やメニューの改善を図ることができた。 |
| ③ | 体育・文化活動支援事業(小学校費) | 1,519 ----- 1,450 | 亀山市文化会館と連携し専門家を招聘し合唱指導の機会や様々な文化公演を行った。また、幼児や児童の体力向上をめざし、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣した。 |
| ③ | 体育・文化活動支援事業(中学校費) | 418 ----- 309 | 亀山市文化会館と連携し、各校へ文化芸術活動の機会を設定することができた。専門家を招聘し、合唱指導の機会を設けることができた。 |
| ③ | 中学校体験活動支援事業 | 535 ----- 511 | 全ての中学校で就労体験を実施し、生徒の社会性等を育成することができた。 |
| ③ | 幼児教育推進事業 | 1,725 ----- 1,433 | 保幼認小間の切れ目のない教育をめざし、教職員が連携し、情報共有することで、きめ細やかな支援体制を整えることができた。各園の若年職員等の指導のための園訪問や研修会を行った。 |
| ③ | 教職員研修事業 | 1,276 ----- 1,132 | 基本研修を6回、教育課題別研修を15回、授業力向上研修を6回開催した。各校への外部講師や市教推各研究部の講師を計画的に派遣し、教職員の主体的な研修を支援した。 |
| ③ | 道徳・人権教育推進事業 | 317 ----- 174 | 差別事象の把握や人権・道徳に関わる各校への助言、市主催の人権研修会の実施とともに、子どもたちの実態に合わせた学習、フォーラム、研究授業の実施を通して、子どもたち同士が互いの意見を尊重し、多様性を認め合う姿が見られるなど成果があった。 |
| ④ | 子育て学習展開事業 | 820 ----- 746 | 保育園等において、保護者対象の家庭教育出前講座を行った。 |
| ⑤ | 適応指導教室事業 | 11,127 ----- 11,045 | 教育支援センターで児童生徒と保護者への相談を行った。教職員のスキル向上のため、研修会を開催した。子どもの居場所づくりのために「かめっ子サポート」に委託し体制強化を図った。 |
| ⑤ | 生徒指導充実事業 | 2,141 ----- 1,807 | 学校からの要請により、指導主事やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒の心のケアや関係機関との連携を進めた。 |
| ⑤ | 障がい児支援事業 | 8,030 ----- 7,433 | 公立幼稚園に在籍する支援が必要な園児に対し、介助員等の職員を加配することで、教育・保育環境の充実を図ることができた。 |
| ⑤ | 特別支援教育推進事業 | 318 ----- 274 | 亀山市教育支援委員会を年間4回開催し、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室など、個に応じた学びの場への就学について、就学先の決定につなげることができた。 |
| ⑤ | 外国人児童生徒教育支援事業 | 2,990 ----- 2,670 | 外国人児童生徒のいる学校へ外国人児童生徒支援員の配置とボランティアの派遣を行った。就学前の幼児や保護者に向けてプレスクールを開催したり、中学校卒業後の進路ガイダンスを開催した。 |
| ⑥ | 青少年健全育成費 | 4,095 ----- 3,872 | 令和6年8月21日～23日に青少年体験活動サマーキャンプを実施した他、各社会教育団体の事業のサポート及び補助金を交付手続きを行った。 |
| ⑥ | 青少年総合支援センター費 | 8,750 ----- 7,980 | 補導員により児童・生徒の登下校時等のパトロールを実施し、不審者情報などについて、迅速に特別パトロール対応とした。また、各地域の非行防止部会等と合同パトロールを実施した。 |
| ⑥ | 二十歳の集い開催費 | 580 ----- 496 | 令和7年1月12日に「二十歳の集い」を開催し、青少年の社会へ踏み出す第一歩のきっかけづくりに寄与した。 |
| | | ----- | |
| | | ----- | |
| | | ----- | |
| | | ----- | |

(3) 事務事業評価シート

| | 体系コード | 計画コード | 事業名 | 課グループ名 | |
|---------|--------|---------|---------------------|-------------------|------------|
| 主要事業 | 020501 | 22057 | 地域の学び推進事業 | 生涯学習課社会教育G | |
| | 040101 | 22073 | 放課後子ども教室推進事業 | 生涯学習課社会教育G | |
| | 040102 | 22075 | 中学校デリバリー給食実施事業 | 教育総務課保健給食G | |
| | | 22076 | 中学校全員喫食制給食実施事業 | 教育総務課教育総務G・保健給食G | |
| | 040103 | 22079 | GIGAスクール構想推進事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | 22080 | 英語教育推進事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | 22081 | 個の学び支援事業(小学校) | 学校教育課学事教職員G | |
| | | 22082 | 個の学び支援事業(中学校) | 学校教育課学事教職員G | |
| | 040105 | 22077 | 学力向上推進事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | 22078 | 学校図書館支援事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | 22083 | 生活困窮者自立支援事業(学習支援事業) | 学校教育課教育支援G | |
| | | 22084 | 少人数教育推進事業 | 学校教育課学事教職員G | |
| | | 22085 | 校務支援システム事業 | 学校教育課学事教職員G | |
| | 標準事業 | 040101 | 19148-1 | 特色ある学校づくり事業(小学校費) | 学校教育課教育支援G |
| | | | 19149-1 | 特色ある学校づくり事業(中学校費) | 学校教育課教育支援G |
| 19182-1 | | | コミュニティスクール推進事業 | 学校教育課学事教職員G | |
| 040102 | | 19008-1 | 施設整備費(小学校費) | 教育総務課教育総務G | |
| | | 19273-1 | 地場農畜産物利用推進事業 | 教育総務課保健給食G | |
| 040103 | | 19015-1 | 体育・文化活動支援事業(小学校費) | 学校教育課教育支援G | |
| | | 19030-1 | 体育・文化活動支援事業(中学校費) | 学校教育課教育支援G | |
| | | 19033-1 | 中学校体験活動支援事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | 19105-1 | 幼児教育推進事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | 19106-1 | 教職員研修事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | 19271-1 | 道徳・人権教育推進事業 | 学校教育課教育研究G | |
| 040104 | | 19132-1 | 子育て学習展開事業 | 生涯学習課社会教育G | |
| 040105 | | 19111-1 | 適応指導教室事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | 19116-1 | 生徒指導充実事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | 19259-1 | 特別支援教育推進事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | 19286-1 | 外国人児童生徒教育支援事業 | 学校教育課教育支援G | |
| 040106 | | 19099-1 | 青少年健全育成費 | 生涯学習課社会教育G | |
| | | 19100-1 | 青少年総合支援センター費 | 生涯学習課社会教育G | |
| | | 19101-1 | 二十歳の集い開催費 | 生涯学習課社会教育G | |
| 050201 | | 19047-1 | 婦人団体育成費 | 生涯学習課社会教育G | |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | |
|--------|---|----------------------|-----------|
| 計画コード | 22057 | 事業名 | 地域の学び推進事業 |
| 事業手法 | <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他() | | |
| ① 基本事項 | 施策の大綱 | 02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実 | |
| | 基本施策 | 05:学びによる生きがいの創出 | |
| | 施策の方向 | 01:地域課題の解決に生かせる学びの展開 | |
| | 重点プロジェクト | 01:「健康さぶらり」プロジェクト | |
| 事業期間 | H 29 年度 ~ R - 年度 | 主な根拠法令等 | |

| | |
|------|----------|
| 評価分類 | A1 |
| 担当部署 | 教育委員会事務局 |
| 部 | 生涯学習課 |
| 課 | 社会教育G |

| 事業の必要性(経緯・背景等) | 事業の対象(誰に、何に対して) | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) | 事業の内容(どのような取組を行うのか) |
|---|-----------------|--|---|
| 令和元年度から、かめやま人キャンパスを核として、学びの循環による人材育成を展開しており、持続的な地域づくりを推進するためには、地域課題に取り組み人材の育成が不可欠である。 | 市民 | 市民一人ひとりが学びを通して新たな生きがいを得るとともに、学びの成果を生かして地域課題の解決に取り組むことで、持続的な地域づくりを推進していく。 | 公民館においては、学びの入り口として、市民ニーズにあった多種多様な講座を実施する。かめやま人キャンパスにおいては、3年を1期とした実践的な学習カリキュラムを通して、地域課題に取り組む「かめやま人」の育成を行うとともに、「かめやま人」に対する活動の支援を行う。また、学びの情報の一元的な発信や、ICT等を活用した誰もが参加できる学びの環境の整備を行う。 |

| 年度 | 令和4年度 | | 令和5年度 | | 令和6年度 | | 令和7年度 | |
|---------------|---------------|----------------------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|------|
| | 事業計画 | 活動実績 (計画通り実施できたか) | 事業計画 | 活動実績 | 事業計画 | 活動実績 | 事業計画 | 活動実績 |
| 事業費 | 16,400千円 | 16,300千円 | 16,400千円 | 15,800千円 | 16,500千円 | 16,191千円 | 16,500千円 | |
| 予 算 額 | 国・県支出金 0千円 | 0千円 | 国・県支出金 0千円 | 0千円 | 国・県支出金 0千円 | 0千円 | 国・県支出金 0千円 | |
| | 地方債 0千円 | 0千円 | 地方債 0千円 | 0千円 | 地方債 0千円 | 0千円 | 地方債 0千円 | |
| | その他 820千円 | 820千円 | その他 820千円 | 820千円 | その他 820千円 | 820千円 | その他 820千円 | |
| | 一般財源 15,580千円 | 15,480千円 | 一般財源 15,580千円 | 14,980千円 | 一般財源 15,680千円 | 15,371千円 | 一般財源 15,680千円 | |
| 事業費 | 16,400千円 | 13,953千円 | 16,400千円 | 14,685千円 | 16,500千円 | 15,202千円 | 16,500千円 | |
| 決 算 額 | 国・県支出金 0千円 | 0千円 | 国・県支出金 0千円 | 0千円 | 国・県支出金 0千円 | 0千円 | 国・県支出金 0千円 | |
| | 地方債 0千円 | 0千円 | 地方債 0千円 | 0千円 | 地方債 0千円 | 0千円 | 地方債 0千円 | |
| | その他 423千円 | 423千円 | その他 619千円 | 619千円 | その他 634千円 | 634千円 | その他 634千円 | |
| | 一般財源 13,530千円 | 13,530千円 | 一般財源 14,066千円 | 14,066千円 | 一般財源 14,568千円 | 14,568千円 | 一般財源 14,568千円 | |
| ①期間内計画額(R4-7) | 65,800千円 | | 65,800千円 | | 65,800千円 | | 65,800千円 | |
| ②期間外計画額(R8-) | - | | - | | - | | - | |
| ①+②総計画額 | 65,800千円 | | 65,800千円 | | 65,800千円 | | 65,800千円 | |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 16,191千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| ④ 指標 (C) | 指標名 | 説明等 | 種別 | | | | | | |
|----------|----------------|---|-----|-----|--------|--------|--------|--------|--|
| | | | 単位 | 区分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | |
| | 高等教育機関と連携した講座数 | 公民館及びひがめやま人キャンパス講座の中で、高等教育機関(大学や高校など)と連携した講座数 | 活動 | 講座 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| | | | 計画値 | 実績値 | 3 | 5 | 10 | | |
| | 生涯学習講座 受講者数 | 公民館・かめやま人キャンパス・行政出前講座等の受講者数 | 成果 | 人 | 10,000 | 12,000 | 14,000 | 16,000 | |
| | | | 計画値 | 実績値 | 2,263 | 19,318 | 21,217 | | |
| | | | 計画値 | 実績値 | | | | | |

| ⑤ 成果 (C) | 判定 | A | 十分な成果を得た | 事業の達成状況等 | | 事業の目的 |
|----------|----|---|----------|--|-------|--|
| | | | | 事業の実施 | 事業の達成 | |
| | | | | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか) | 事業の達成 | 事業の目的 |
| | | | | 中央公民館活動事業については、地域のニーズに沿った講座を実施することにより、市民の自発的な学びにつなげた。第2期かめやま人キャンパス展開事業を起点として、YouTube Live 等のデジタル技術を活用した講座を実施したことにより、地域のデジタル化の促進を図った。第1期かめやま人認定者に対して、フォローアップ講座を実施し、中央公民館講座等の講師や行政委員として登用するなどの支援等を行った。 | | 市民一人ひとりが学びを通して新たな生きがいを得るとともに、学びの成果を生かして地域課題の解決に取り組むことで、持続的な地域づくりを推進していく。 |
| | | | | | (再掲) | |

| ⑥ 課題 (C) | 事業の達成状況等 | 踏まえた課題事項 |
|----------|----------|----------|
| | | |

| ⑦ 事業の展開 (A) | 継続(現状維持) | 現状どおり事業を継続する | 方向性 | | | | |
|-------------|----------|--|----------|----------|----------|----------|--|
| | | | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | |
| | | | | | | | |
| | | 改善・見直し内容 | | | | | |
| | | 令和7年度で対応する(した)もの 令和8年度以降で対応するもの | | | | | |
| | | 第2期かめやま人キャンパスの最終年であること に、かめやま人のフォローアップを継続して行うとともに、かめやま人キャンパスと公民館事業を基軸として、行政関連部署や各関係団体と連携し、行政関連部署や各関係団体と連携しやすい土壌を形成するため、かめやま人キャンパスや中央公民館講座などの展開の他、かめやま人の活動を周知活動の場を広げていく。 | A | A | A | | |
| | | | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育GL 草川 正富 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 生涯学習課長 落合 努 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | | | |
|----------|--|----------|---|----------|----|
| 計画コード | 22073 | 事業名 | 放課後子ども教室推進事業 | 評価分類 | A1 |
| 事業手法 | <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 | 補助等 | <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他 | 担当部署 | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | | | 教育委員会事務局 | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | | 生涯学習課 | |
| 施策の方向 | 01:学びを支える温かさあふれる学校づくり | | | 社会教育G | |
| 重点プロジェクト | - | | | | |
| 事業期間 | H 19 年度 | ～ R - 年度 | 主な根拠法令等 | | |

| 事業の必要性(経緯・背景等) | 事業の対象(誰に、何に対して) | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) | 事業の内容(どのような取組を行うのか) |
|---|-----------------|--|---|
| 次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、地域住民の参画を得て総合的な放課後対策に取り組み必要がある。 | 小学生 | 地域での子ども体験学習や地域の大人との交流活動などを通じて、地域の中で子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりのため、「放課後子ども教室」を継続的に実施していく。 | 全小学校区において、放課後子ども教室の持続的な運営を行うとともに、放課後児童クラブと十分な連携を図り、体験学習や地域の人の交流活動を通じて、児童が安心して過ごすことができる場を創出する。 |

| 年度 | 令和4年度 | | 令和5年度 | | 令和6年度 | | 令和7年度 | | |
|---------------|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|------|----------|
| | 事業計画 | 活動実績 | 事業計画 | 活動実績 | 事業計画 | 活動実績 | 事業計画 | 活動実績 | |
| 事業費 | 15,100千円 10,000千円 | 12,884千円 8,588千円 | 15,100千円 10,000千円 | 13,319千円 8,879千円 | 15,100千円 10,000千円 | 13,339千円 8,892千円 | 15,100千円 10,000千円 | | |
| 国・県支出金 | | | | | | | | | |
| 地方債 | | 0千円 | | | | | | | |
| その他 | | 0千円 | | | | | | | |
| 一般財源 | 5,100千円 | 4,296千円 | 5,100千円 | 4,440千円 | 5,100千円 | 4,447千円 | 5,100千円 | | |
| 国・県支出金 | 10,250千円 | 6,763千円 | 11,896千円 | 7,805千円 | 12,076千円 | 8,019千円 | 8,019千円 | | |
| 地方債 | | 0千円 | | 0千円 | | 0千円 | 0千円 | | |
| その他 | | 0千円 | | 0千円 | | 0千円 | 0千円 | | |
| 一般財源 | 3,487千円 | 3,487千円 | 4,091千円 | 4,091千円 | 4,057千円 | 4,057千円 | 4,057千円 | | |
| ①期間内計画額(R4-7) | 60,400千円 | | ②期間外計画額(R8-) | | - | | ①+②総計画額 | | 60,400千円 |

③事業の実施状況(P・D)

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 13,339千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| ④ 指標 (C) | 指標名 | 説明等 | 種別 | 単位 | 区分 | | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------|---------------|--------------------------------|----|----|-----|-----|--------|--------|--------|--------|
| | | | | | 計画値 | 実績値 | | | | |
| ④ 指標 (C) | 放課後子ども教室参加者数 | 放課後子ども教室に参加した地域ボランティアの延べ人数(年間) | 活動 | 人 | | | 5,400 | 5,500 | 5,600 | 5,700 |
| | | | | | | | 6,347 | 6,224 | 6,321 | |
| ④ 指標 (C) | 放課後子ども教室参加児童数 | 放課後子ども教室に参加した児童の延べ人数(年間) | 成果 | 人 | | | 13,500 | 14,000 | 14,500 | 15,000 |
| | | | | | | | 13,123 | 16,166 | 15,797 | |
| | | | | | | | | | | |

| | |
|----------|--|
| ⑤ 成果 (C) | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか) |
| A | インフルエンザ等の感染症の影響により、一部中止となった放課後子ども教室もあったが、全小学校区において概ね計画通りに実施することができた。その結果、地域の体験学習や大人との交流活動を通じて、子どもが地域の中で育まれる居場所を構築することができた。 |
| | 十分な成果を得た |

| | |
|---|-------|
| 事業の目的 | 事業の対象 |
| 地域での子どもの体験学習や地域の大人との交流活動などを通じて、地域の中で子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりのため、「放課後子ども教室」を継続的に実施していく。 | 小学生 |

(再掲)

| | |
|----------|--|
| ⑥ 課題 (C) | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
| | 子どもが地域の中で安全・安心に過ごすことができる環境を充実させるため、放課後児童クラブやPTA、子ども会等の地域団体と引き続き、協力していく必要がある。また、一部の小学校区では、運営に関わる人の高齢化等により、どのように人材を確保していくか等の課題がある。 |

| | |
|-------------|--|
| ⑦ 事業の展開 (A) | 方向性 |
| | 継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する |
| | 改善・見直し内容 |
| | 令和7年度で対応する(した)もの 各校のコーディネーターが交流できる場を設け、運営に必要な人材の確保等に必要な情報共有に努める。放課後児童クラブや地域団体と情報共有を図り、地域一体となって子どもが安全・安心に育まれる居場所づくりの充実を図る。 |
| | 令和8年度以降で対応するもの 今後も継続して、地域一体となって子どもが安全・安心に育まれる居場所づくりの充実を図る。 |

| | | | | |
|------|----------|----------|----------|-------|
| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| 成果判定 | A | A | A | |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | |

【履歴】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育GL 草川 正富 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 生涯学習課長 落合 努 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | |
|----------|--|---------|----------------|
| 計画コード | 22075 | 事業名 | 中学校デリバリー給食実施事業 |
| 事業手法 | <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | |
| 施策の方向 | 02:豊かな学びを支える教育環境の充実 | | |
| 重点プロジェクト | 04:「未来へのトラジャプロジェクト」 | | |
| 事業期間 | H 20 年度 ~ R - 年度 | 主な根拠法令等 | |

| | |
|------|----------|
| 評価分類 | A1 |
| 担当部署 | 教育委員会事務局 |
| 部 | 教育総務課 |
| 課 | 保健給食G |

| 事業の必要性(経緯・背景等) | 事業の対象(誰に、何に対して) | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) | 事業の内容(どのような取組を行うのか) |
|---|------------------------|---|---|
| <p>亀山中学校・中部中学校の生徒が、正しい食生活を身に付け、食育に関する指導の充実を図るとともに、栄養に配慮した食事を提供することとして、平成20年度から実施している。</p> | <p>亀山中学校及び中部中学校の生徒</p> | <p>家庭弁当の持参でデリバリー給食の選択ができる方式を通して、生徒が自らの食生活に関心を示し、食への関わりを持つ機会を与え、心身の成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供する。</p> | <p>亀山中学校・中部中学校における生徒の昼食を、家庭弁当の持参と給食の調理・予約注文・集金業務等を外部委託するデリバリー給食との選択制とし、各家庭のニーズや生徒の嗜好・栄養摂取を考慮した昼食の提供を実施する。</p> |

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|--|--|--|-----------------|
| 事業計画 | ○デリバリー方式による給食実施 | ○デリバリー方式による給食実施 | ○デリバリー方式による給食実施 | ○デリバリー方式による給食実施 |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | 年間178回の実施により、必要な回数の給食を実施することができた。生徒対象のアンケートを実施し、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図った。 | 年間181回の実施により、必要な回数の給食を実施することができた。生徒対象のアンケートを実施し、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図った。 | 年間177回の実施により、必要な回数の給食を実施することができた。生徒対象のアンケートを実施し、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図った。 | |
| 事業費 | 46,000千円 | 46,000千円 | 46,000千円 | 46,000千円 |
| 予 算 額 | 43,700千円 | 47,400千円 | 47,515千円 | |
| 国・県支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| その他 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| 一般財源 | 46,000千円 | 47,400千円 | 47,515千円 | |
| 事業費 | 42,088千円 | 47,254千円 | 47,514千円 | |
| 国・県支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| その他 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| 一般財源 | 42,088千円 | 47,254千円 | 47,514千円 | |
| ①期間内計画額(R4-7) | 184,000千円 | ②期間外計画額(R8-) | - | ①+②総計画額 |
| | | | | 184,000千円 |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 47,515千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| 指標名 | 説明等 | 種別 | 単位 | 区分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|-----------------|-------------------|----|----|------------|----------|----------|----------|-------|
| ④ 生徒のデリバリー給食満足度 | アンケートにおける肯定的回答の割合 | 成果 | % | 計画値 実績値 | 70 75 | 70 74 | 70 85 | 70 |
| ④ 新メニューの取り入れ | 新メニュー取り入れ回数 | 活動 | 回 | 計画値 実績値 | 10 11 | 10 11 | 10 11 | 10 |

| | |
|----------|--|
| ⑤ 判定 | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか) |
| A | 生徒対象のアンケートでは、肯定的回答(おもしろい・どちらかと言えはおいしい)の割合が計画値を上回っている。また、利用者の過半数が、栄養バランスの良さやメニュー選択の自由、温かいものは温かく、冷たいものは冷たいまま食べられることを評価しており、生徒の昼食への関心を高めつつ、栄養バランスの考えられた昼食を提供することができた。 |
| 十分な成果を得た | |

| | |
|-----------------|--|
| 事業の対象 | 事業の目的 |
| 亀山中学校及び中部中学校の生徒 | 家庭弁当の持参とデリバリー給食の選択ができる方式を通して、生徒が自らの昼食に関心を示し、食への関りを持つ機会を与えとともに、心身の成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供する。 |

(再掲)

| | |
|------|--|
| ⑥ 課題 | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
| C | 生徒対象のアンケートでは、利用者の41%が残食について、ときどき残す・ほとんど毎日残すと回答しており、量の調整や味の濃淡、好き嫌いへの対応が課題と考えられる。一方で、長期化する物価高騰への対応については、栄養面を考慮しながら検討していく必要がある。 |

| | |
|---------|---|
| ⑦ 事業の展開 | 方向性 |
| A | 現状どおり事業を継続する 改善・見直し内容 |
| | 令和7年度で対応する(した)もの 令和8年度以降で対応するもの 材料費の高騰に対応しながら、生徒対象のアンケート結果を活用し、新メニューの導入と併せて献立内容の改善を進める。 令和8年度早期に民間調理委託による全員喫食制給食に移行する。 |

| | | | |
|-------|----------|----------|----------|
| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| 成果判定 | A | A | A |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) |

【履歴】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 教育総務課 保健給食GL 渡邊 尚也 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 教育総務課長 麻生 俊哉 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | |
|----------|--|---------|----------------|
| 計画コード | 22076 | 事業名 | 中学校全員喫食制給食実施事業 |
| 事業手法 | <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 会計 | 01:一般会計 |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | 款 | 10:教育費 |
| 施策の方向 | 02:豊かな学びを支える教育環境の充実 | 項 | 03:中学校費 |
| 重点プロジェクト | 04:「未来へのトラ」プロジェクト | 目 | 01:学校管理費 |
| 事業期間 | R 4 年度 ~ R 7 年度 | 主な根拠法令等 | - |

| | |
|------|----|
| 評価分類 | B1 |
|------|----|

| | |
|------|----------------------|
| 担当部署 | |
| 部 | 教育委員会事務局 |
| 課 | 教育総務課 教育総務G・保健給食G |

| 事業の必要性(経緯・背景等) | 事業の対象(誰に、何に対して) | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) | 事業の内容(どのような取組を行うのか) |
|---|---|---|---|
| <p>亀山中学校・中部中学校においては、現在、弁当またはデリバリー給食の選択制としているが、家庭環境の多様化や生徒間の公平性を考慮し、全員喫食制給食の早期実現を進める必要がある。</p> | <p>事業の対象(誰に、何に対して) 亀山中学校及び中部中学校に在籍する生徒及び教職員</p> | <p>事業の目的(どのような状態にしたいのか) 亀山中学校及び中部中学校において、全ての生徒が同じ給食を一緒に食べることができる体制を整える。</p> | <p>事業の内容(どのような取組を行うのか) 亀山中学校及び中部中学校における全員喫食制給食の実施に向け、外部調理委託による食卓搬入方式の体制を整えるとともに、中学校2校の給食受け入れ環境の整備を行う。</p> |

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|--|--|--|--|
| 事業計画 | <p>建設地、運営方法等の検討・決定</p> | <p>敷地整理・インフラ調整 用地測量 設計業者選定 埋蔵文化財調査</p> | <p>外部調理委託業者選定 中学校配膳室等整備工事設計</p> | <p>中学校配膳室等整備工事 埋蔵文化財調査 配膳室備品購入</p> |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | <p>給食調理施設の建設候補地、調理能力、施設規模、事業手法について、教育委員会において9回にわたり検討を重ね、課題を整理した。 しかし、必要面積、法規制やインフラ等の立地条件を満たす候補地がなく、また、物価高騰及び事業内容精査により事業費が増加し、財源確保が困難となる見通しから、建設地・事業手法の決定に至らなかった。</p> | <p>昨年度の検討結果を受けて、財政面及び用地確保の課題から、事業手法等を含め再調査・再検討を実施した。結果、引き続き給食調理施設の整備による給食実施を目指すも、現段階においては外部調理委託による食卓搬入方式での給食実施を行うことと手法を変更し、その内容を以て、令和5年11月に「中学校全員喫食制給食実施に係る基本的な計画」を策定した。</p> | <p>亀山市中学校給食調理等業務委託業者選定委員会要綱を制定し、当該委員会にて書類審査、プレゼン等を実施し、業者選定を行った。その後、選定業者との委託契約を締結し、業務実施に向けて協議を行った。 2中学校の配膳室や給食用エレベーター等の整備に係る設計業務を、学校や上記選定業者等との意見交換を行いつつ、完了した。</p> | |
| 事業費 | 0千円 | 1,200千円 | 21,700千円 | 234,000千円 |
| 予 算 額 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 決 算 額 | 0千円 | 0千円 | 16,000千円 | 160,000千円 |
| | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | 0千円 | 1,200千円 | 5,700千円 | 74,000千円 |
| | 0千円 | 0千円 | 14,056千円 | 0千円 |
| | 0千円 | 0千円 | 10,400千円 | 0千円 |
| | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | 0千円 | 0千円 | 3,656千円 | 0千円 |
| ①期間内計画額(R4-7) | 256,900千円 | 256,900千円 | 0千円 | 256,900千円 |
| ②期間外計画額(R8-) | | | 0千円 | 0千円 |
| ①+②総計画額 | | | 0千円 | 256,900千円 |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 15,030千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| 指標名 | 説明等 | 種別 | 単位 | 区分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---------------|-----|----|----|------------|-------|-------|----------|-------|
| ④ 外部調理委託業者の選定 | | 成果 | | 計画値 実績値 | | | 完了 完了 | |
| 2中学校配膳室整備工事 | | 成果 | | 計画値 実績値 | | | | 完了 |
| | | 成果 | | 計画値 実績値 | | | | |

| 事業の目的 | 事業の目的 |
|-------------------------------------|--|
| <p>⑤ 進捗度合 (C)</p> <p>計画どおり進んでいる</p> | <p>事業の対象</p> <p>亀山中学校及び中部中学校に在籍する生徒及び教職員</p> <p>事業の目的</p> <p>亀山中学校及び中部中学校において、全ての生徒が同じ給食を一緒に食べることができる体制を整える。</p> |

(再掲)

| 判定 | 評価理由 |
|----|---|
| A | スケジュールどおり、外部調理委託の業者選定及び配膳室等整備工事の設計業務を完了することができた。また、選定業者と契約締結後、関係者の意見等も踏まえつつ、運営面において必要な協議を行っている。 |

| 課題 | 事業の進捗度合を踏まえた課題事項 |
|--|------------------|
| ⑥ 2中学校とも学校運営を行いながら、令和8年度早期の中学校全員の喫食制給食の開始に向け、2中学校配膳室等整備工事を実施する。その際、速やかに埋蔵文化財調査を完了させるとともに、騒音の発生が想定される解体工事等を学校教育活動に支障を来さないように夏季休業期間中等に行うなど、綿密なスケジュール管理が求められる。また、調理・配送面等において、安全・安心な給食の実施に向け、委託業者と更なる協議を進める必要がある。さらに、2中学校の全生徒を対象とした給食となることから、学校内での衛生に配慮した配膳や後片付け、給食指導等の研修や環境整備を進める必要がある。 | |

| 履歴 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------|----------|----------|----------|-------|
| 進捗度合 | | B | A | |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | |

(再掲)

| 事業の展開 | 方向性 |
|------------|--|
| ⑦ 継続(現状維持) | 現状どおり事業を継続する |
| | 改善・見直し内容 |
| | <p>令和7年度で対応する(した)もの</p> <p>工事の実施のほか、埋蔵文化財調査、工事監理、備品搬入等を実施する。なお、工事実施の際には、週1回程度の定例会議を設け、教育委員会、学校、施工業者の速やかな情報共有、意思形成を図り、スケジュール管理を行う。また、調理・配送面等において委託業者等と更なる協議や2中学校における給食指導等の環境整備を進める。</p> <p>令和8年度以降で対応するもの</p> <p>令和8年度早期から中学校全員の喫食制給食を実施する。</p> |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 教育総務課 教育総務GL 中野 貴晶 |
| 最終評価者 | 保健給食GL 渡邊 尚也 教育委員会事務局 教育総務課長 麻生俊哉 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | |
|----------|--|---------|-------------------------------|
| 計画コード | 22079 | 事業名 | GIGAスクール構想推進事業 |
| 事業手法 | <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | |
| 施策の方向 | 03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | | |
| 重点プロジェクト | 04:「未来へのトラ」プロジェクト | | |
| 事業期間 | R 4 年度 ~ R 12 年度 | 主な根拠法令等 | 学校教育の情報化の推進に関する法律 第3期教育振興基本計画 |
| ①基本事項 | 予 算 科 目 01:一般会計 10:教育費 08:教育研究費 01:教育研究費 | | |
| 評価分類 | A1 | | |
| 担当部署 | 教育委員会事務局 | | |
| 部 | 学校教育課 | | |
| 課 | 教育研究G | | |

| | | | | |
|-----------|--|-------------------------------------|---|---|
| ②事業概要 (P) | 事業の必要性(経緯・背景等) GIGAスクール構想の実現に向け、文部科学省が作成したロードマップに沿って環境整備等を行っていく必要がある。 | 事業の対象(誰に、何に対して) 市内小中学校の児童生徒及び教職員 | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) 「令和の日本型学校教育」が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、国が示したロードマップに沿った環境の整備を行うとともに、教員のICTを使った授業の指導力向上を図り、子どもたちの情報活用能力を育成する。 | 事業の内容(どのような取組を行うのか) 1人1台のタブレット端末とクラウド環境等の整備を行うとともに、情報通信技術支援員の活用をする。また、教職員の指導技術の向上のための教職員研修を実施する。 |
|-----------|--|-------------------------------------|---|---|

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|--|---|--|--|
| 事業計画 | ○パソコン教室関連機器等貸借 ○校務用サーバー等関連機器貸借 ○情報機器の導入(教員用)、保守等 ○情報通信技術支援員の配置 ○教員研修、視察等 | ○パソコン教室関連機器等貸借 ○校務用サーバー等関連機器貸借 ○情報機器の導入(教員用)、保守等 ○情報通信技術支援員の配置 ○教員研修、視察等 | ○パソコン教室関連機器等貸借 ○校務用サーバー等関連機器貸借 ○情報機器の保守等 ○情報通信技術支援員の配置 ○教員研修、視察等 | ○校務用サーバー等関連機器貸借 ○校務用PC等関連機器更新 ○情報通信技術支援員の配置 ○教員研修、視察等 |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | 小中学校校務用サーバーの契約期限が令和4年8月末のため、令和4年9月1日より校務用サーバー等貸借の新規契約を締結した。 小中学校の管理職・非常勤講師等用の端末を62台追加配当とともに、情報通信技術支援員を1名配置した。また、ICTに係る教職員研修及び先進校視察を行った。 | 児童生徒用端末の持ち帰り学習の増加に備え、ファイル共有ソフトの更新を行うとともに、平成28・29年度導入の教職員用タブレットPCを59台追加更新した。また、情報通信技術支援員の配置を継続したほか、教職員を対象とした端末活用や情報モラルに係る研修会の開催や授業実践の指導助言を行った。 | 市現在市内小中学校で使用している授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」の契約更新を行った。 また、情報通信技術支援員の配置を継続したほか、教職員を対象とした端末活用や情報モラルに係る研修会の開催や授業実践の指導助言を行った。 | |
| 事業費 | 63,700千円 1,770千円 0千円 0千円 61,930千円 | 65,800千円 61,079千円 0千円 0千円 65,800千円 | 66,200千円 56,981千円 0千円 0千円 66,200千円 | 134,700千円 89,000千円 0千円 45,700千円 |
| 決算額 | 国・県支出金 1,596千円 0千円 0千円 51,427千円 | 60,156千円 0千円 0千円 0千円 60,156千円 | 56,459千円 0千円 0千円 0千円 56,459千円 | 344,600千円 |
| ①期間内計画額(R4-7) | 330,400千円 | ②期間外計画額(R8-) | 14,200千円 | ①+②総計画額 |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 56,981千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| 種別 | 単位 | 区分 | 説明等 | | | |
|----|----|-----|-------|-------|-------|-------|
| | | | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| 成果 | % | 計画値 | 70 | 72 | 74 | 76 |
| | | 実績値 | 84 | 89 | 90 | |
| 活動 | 回 | 計画値 | 15 | 35 | 50 | 70 |
| | | 実績値 | 17 | 53 | 143 | |
| 成果 | % | 計画値 | 70 | 72 | 74 | 76 |
| | | 実績値 | 69 | 75 | 92 | |

| 事業の対象 | 事業の目的 |
|------------------|---|
| 市内小中学校の児童生徒及び教職員 | 「令和の日本型学校教育」が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、国が示したロードマップに沿った環境の整備を行うとともに、教員のICTを使った授業の指導力向上を図り、子どもたちの情報活用能力を育成する。 |

(再掲)

| | |
|--|--|
| <p>⑤ 指標 (C)</p> <p>ICT活用スキルを身に付けている教職員の割合</p> <p>亀山市のICT活用スキル表のステップ2以上のスキルを身につけている教職員の割合</p> <p>各校において、端末を持ち帰っての学習の回数(年間)</p> <p>「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つか」という問いに対して、「役に立つ」(強肯定)と答えた児童生徒の割合</p> | <p>説明等</p> <p>事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)</p> <p>児童生徒のタブレット端末による持ち帰り学習が増え、家庭学習におけるタブレット端末の活用が向上した。</p> <p>また、ICT活用や情報教育に関する研修会を実施したことにより、教員のICT活用能力が向上した。これにより、わかりやすい授業づくりが進み、子どもたちの情報活用能力の向上につながることができた。</p> |
|--|--|

十分な成果を得た

| | |
|--|--------------------------|
| <p>⑥ 課題 (C)</p> <p>文部科学省が推進するGIGAスクール構想の実現に向け、環境整備を進めるとともに、子どもたちの情報活用能力の育成に取り組む必要がある。</p> <p>今後の機器等の更新については、機能性と経済性の両面を考慮しながら進めていく必要がある。</p> <p>また、児童生徒用端末の更新に関しては、国や県の動向を踏まえ、市としての方向性を定める必要がある。</p> | <p>事業の達成状況等を踏まえた課題事項</p> |
|--|--------------------------|

| | |
|--|---|
| <p>⑦ 事業の展開 (A)</p> <p>継続(現状維持)</p> <p>現状どおり事業を継続する</p> | <p>方向性</p> <p>改善・見直し内容</p> <p>令和7年度で対応する(した)もの 指導者用(校務用)端末の更新を実施するとともに、県主催の「GIGAスクール構想推進協議会」に参加し、児童生徒用端末の更新に関する市教育委員会としての方向性を検討する。また、令和8年度の児童生徒用端末の更新に向け、準備を進める。</p> <p>令和8年度以降で対応するもの GIGAスクール構想のロードマップに沿い、児童生徒用端末の更新や大型モニターの入替など、ICT環境整備を適切に実施する。また、ICTの活用を通じた学びの向上に向け、必要に応じて改善・見直しを行う。</p> |
|--|---|

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------|----------|----------|----------|-------|
| 成果判定 | A | A | A | |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | |

【履歴】

| | |
|-------|------------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育研究GL 小野寺 順子 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | |
|----------|---|--------|----------|
| 計画コード | 22080 | 事業名 | 英語教育推進事業 |
| 事業手法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 | その他() | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | |
| 施策の方向 | 03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | | |
| 重点プロジェクト | 04:「未来へのトラジャ」プロジェクト | | |
| 事業期間 | H 19 年度 | ～ R 年度 | 主な根拠法令等 |

| | |
|---------|----------|
| 予 算 科 目 | 01:一般会計 |
| 款 | 10:教育費 |
| 項 | 08:教育研究費 |
| 目 | 01:教育研究費 |

| | |
|------|----------|
| 評価分類 | A1 |
| 担当部署 | 教育委員会事務局 |
| 部 | 学校教育課 |
| 課 | 教育支援G |

② 事業概要 (P)

事業の必要性(経緯・背景等) 事業の対象(誰に、何に対して) 事業の目的(どのような状態にしたいのか) 事業の内容(どのような取組を行うのか)

学習指導要領では、英語における4技能を系統的・実践的に身に付けさせることが求められており、ALTの配置等により、児童生徒の総合的な英語力の向上と、教員の指導力の向上を図る必要がある。

小学校及び中学校の児童・生徒・教員とALTが協力して、実践的で魅力的な授業づくりを行うとともに、ネイティブな英語に触れる機会を充実させることにより、児童生徒が総合的な英語力を身に付けている。また、児童生徒の英語力を確実に把握し、その結果が授業改善に活かされている。

ALTプログラムや派遣委託によるALTを小中学校に配置するほか、子どもたちの4技能を客観的に把握するため、外部試験を行う。また、小学生が楽しく英語に親しむ機会をつくるため、英語ディキャンプを行う。さらには、教員の英語指導力向上のため、英語教育研修会を行う。

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|--|--|--|--|
| 事業計画 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ALTの配置(JET・派遣委託) ○ 英語試験の実施 ○ 英語ディキャンプの実施 ○ 英語教育研修会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ALTの配置(JET・派遣委託) ○ 英語試験の実施 ○ 英語ディキャンプの実施 ○ 英語教育研修会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ALTの配置(JET・派遣委託) ○ 英語試験の実施 ○ 英語ディキャンプの実施 ○ 英語教育研修会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ALTの配置(JET) ○ 英語ディキャンプの実施 ○ 英語教育研修会の実施 |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | <p>年度末時点でALT(JET・派遣委託)は、5名を任用し、3共通テストを中1・2年生対象に1回実施した。また、中2・3年生において、外部試験を実施した。英語ディキャンプを実施し、28名の児童が参加した。教職員対象の英語教育研修会も実施できた。</p> | <p>年度末時点でALT(JET・派遣委託)は、5名を任用し、各校へ配置した。英語試験については、中2・3年生において、外部試験を実施した。英語ディキャンプを実施し、22名の児童が参加した。教職員対象の英語教育研修会も実施できた。</p> | <p>年度末時点でALT(JET・派遣委託)は、5名を任用し、各校へ配置した。英語試験については、中2・3年生において、外部試験を実施した。英語ディキャンプを実施し、22名の児童が参加した。教職員対象の英語教育研修会も実施できた。</p> | |
| 事業費 | 33,400千円 | 32,300千円 | 32,800千円 | 17,600千円 |
| 予 算 額 | | | | |
| 国・県支出金 | 0千円 | 29,575千円 | 31,874千円 | |
| 地方債 | 0千円 | | | |
| その他 | 1,050千円 | 1,115千円 | 1,150千円 | 1,150千円 |
| 一般財源 | 32,350千円 | 28,460千円 | 31,650千円 | 16,450千円 |
| 事業費 | 31,104千円 | 28,859千円 | 29,995千円 | |
| 国・県支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| その他 | 993千円 | 1,107千円 | 1,079千円 | |
| 一般財源 | 30,111千円 | 27,752千円 | 28,916千円 | |
| ①期間内計画額(R4-7) | 116,100千円 | ②期間外計画額(R8-) | | 116,100千円 |
| | | | - | ①+②総計画額 |

③ 事業の実施状況 (P・D)

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 31,874千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| ④ 指標 (C) | 指標名 | 説明等 | 令和6年度予算額の内訳 | | | | | | |
|----------|------------------|------------------------------------|-------------|----|------------|----------|------------|----------|-------|
| | | | 種別 | 単位 | 区分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| | 英語研修会の実施回数 | 英語研修会の実施回数 | 活動 | 回 | 計画値 実績値 | 2 2 | 2 2 | 3 3 | |
| | 英語でやりとりできる中学生の割合 | 外部試験において、CEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合 | 成果 | % | 計画値 実績値 | 80 70 | 80 60.9 | 80 71 | |
| | 子どもたちの満足度 | 外国語活動に対する肯定評価の割合 | 成果 | % | 計画値 実績値 | 80 72 | 80 89 | 80 96 | |

| | | |
|----------|----|---|
| ⑤ 成果 (C) | 判定 | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか) |
| | B | ALTの全校配置により、ネイティブな英語に触れる機会が増え、外国語の授業の満足度が向上し、「話す・聞く」を重点においた英語力が身についた。また、英語キャンプではアクティビティを通じて英語に親しむことができた。さらに、生徒の英語力を把握・検証するための研修会を実施し、課題を解決するための授業改善につなげることができた。 |
| | | ますまず成果を働た |

| | |
|---|-------------------|
| 事業の目的 | 事業の対象 |
| 教員とALTが協力して、実践的で魅力的な授業づくりを行うとともに、ネイティブな英語に触れる機会を充実させることにより、児童生徒が総合的な英語力を身に付けている。また、児童生徒の英語力を確実に把握し、その結果が授業改善に活かされている。 | 小学校及び中学校の児童・生徒・教員 |

(再掲)

| | |
|----------|--|
| ⑥ 課題 (C) | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
| | 「話す・聞く・読む・書く」の4技能を客観的に把握するため、単元ごとの評価を実施し、英語力の詳しい実態を把握する必要がある。また、担当教員や担任がALTと協力し、魅力ある授業づくりをするための研修会を継続的に実施することが求められる。 |

| | |
|-------------|---|
| ⑦ 事業の展開 (A) | 方向性 |
| | 継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する |
| | 改善・見直し内容 |
| | 令和7年度で対応する(した)もの 令和8年度以降で対応するもの 令和7年度の実施状況を踏まえ、児童生徒が総合的な英語力を身に付けられるよう、必要に応じて改善・見直しを進める。 |

| | | | | |
|------|---------------|---------------|---------------|-------|
| 成果判定 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| 事業展開 | A 継続(現状維持) | B 継続(現状維持) | B 継続(現状維持) | |

【履歴】

| | |
|-------|------------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援GL 北川 恵美子 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | | | |
|----------|--|-----|---------------|------|-----------------|
| 計画コード | 22081 | 事業名 | 個の学び支援事業(小学校) | 評価分類 | A1 |
| 事業手法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他 | | | | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | | | | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | 会計 | 01:一般会計 | 担当部署 | 教育委員会事務局 |
| 施策の方向 | 05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | 款 | 10:教育費 | 部 | 教育委員会事務局 |
| 重点プロジェクト | 04:「未来へのトラ」プロジェクト | 項 | 02:小学校費 | 課 | 学校教育課 学事教職員G |
| 事業期間 | H 20 年度 ~ R - 年度 | 目 | 01:学校管理費 | | |
| | | | | | |

| 事業の必要性(経緯・背景等) | 事業の対象(誰に、何に対して) | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) | 事業の内容(どのような取組を行うのか) |
|--|--|--|---|
| <p>特別な支援を必要とする児童が増加しており、医療行為や別室での個別対応など、支援の内容も多様化している中、児童の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。</p> | <p>小学校の特別支援学級に在籍する児童および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童</p> | <p>学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする児童が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。</p> | <p>各学校の状況に応じて、介助員、生活支援員、学習生活相談員、看護師、校内教育支援センター支援員を配置する。</p> |

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|--|---|--|--|
| 事業計画 | <p>○介助員の配置</p> <p>○生活支援員の配置</p> <p>○学習生活相談員の配置</p> <p>○看護師の配置</p> | <p>○介助員の配置</p> <p>○生活支援員の配置</p> <p>○学習生活相談員の配置</p> <p>○看護師の配置</p> | <p>○介助員の配置</p> <p>○生活支援員の配置</p> <p>○学習生活相談員の配置</p> <p>○看護師の配置</p> | <p>○介助員の配置</p> <p>○校内教育支援センター支援員の配置</p> <p>○看護師の配置</p> |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | <p>特別な支援を必要とする児童が安心安全に学校生活を送ることができるよう、介助員等を適切に配置した。</p> <p>○介助員:9小学校 36人配置</p> <p>○生活支援員:2小学校 2人配置</p> <p>○学習生活相談員:8小学校 8人配置</p> <p>○看護師:1小学校 2人配置</p> | <p>特別な支援を必要とする児童が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、介助員等を適切に配置した。</p> <p>○介助員:10小学校 42人配置</p> <p>○生活支援員:2小学校 2人配置</p> <p>○学習生活相談員:8小学校 8人配置</p> <p>○看護師:1小学校 2人配置</p> | <p>特別な支援を必要とする児童が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、介助員等を適切に配置した。</p> <p>○介助員:9小学校 37人配置</p> <p>○生活支援員:2小学校 2人配置</p> <p>○学習生活相談員:6小学校 7人配置</p> <p>○看護師:2小学校 2人配置</p> | |
| 事業費 | 80,200千円 | 82,200千円 | 82,700千円 | 69,600千円 |
| 国・県支出金 | 1,300千円 | 1,300千円 | 1,300千円 | 1,860千円 |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| その他 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 一般財源 | 78,900千円 | 80,900千円 | 81,400千円 | 67,740千円 |
| 事業費 | 72,161千円 | 81,995千円 | 76,217千円 | |
| 国・県支出金 | 1,125千円 | 1,101千円 | 1,215千円 | |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| その他 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |
| 一般財源 | 71,036千円 | 80,894千円 | 75,002千円 | |
| ①期間内計画額(R4-7) | 314,700千円 | ②期間外計画額(R8-) | - | ①+②総計画額 314,700千円 |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 77,449千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| ④ 指標 (C) | 指標名 | 説明等 | 種別 | | | | | | |
|----------|-------------|-------------------------------|----|----|------------|-------|-------|-------|-----|
| | | | 単位 | 区分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | |
| ⑤ 成果 (C) | 介助員の配置率 | 教育支援委員会の判定に基づく介助員数に対する配置率 | 成果 | % | 計画値 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | 支援情報の引継ぎの割合 | 個別の指導計画等を作成し引継ぎができていない児童の割合 | 成果 | % | 実績値 92 | 98 | 100 | 100 | 100 |
| | 学校生活の満足度 | 学校満足度調査における支援を必要とする児童の保護者の満足度 | 成果 | % | 計画値 92 | 92 | 93 | 93 | 93 |
| | | | 成果 | % | 実績値 91 | 93 | 93 | 93 | 93 |

| 事業の対象 | 事業の目的 |
|---|---|
| 小学校の特別支援学級に在籍する児童および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童 | 学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする児童が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。 |

(再掲)

| 判定 | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対して)どのような効果があったか |
|----|--|
| A | 介助員等の配置により、特別支援学級に在籍する児童の学習面・生活面の支援を行うことができた。また、特別支援学級以外の特別な支援を必要とする児童に対して、生活支援員と学習生活相談員による支援を行うことができた。学校満足度調査では、保護者の93%が満足と回答しており、児童が安心して安全に学校生活を送ることにつながった。また、特別支援学級に在籍する小学校6年生の中には個別支援を必要でなくなくなった児童もおり、中学校進学と同時に通常学級へ転籍する児童もいた。 |

| 課題 (C) | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
|--------|---|
| ⑥ | 多様な支援を必要とする児童が増加する中、特別支援学級に在籍する児童だけでなく、校内教育支援センターに通う児童への支援も含め、多様な学びと支援に対応できる体制の構築が求められる。途切れない支援を行うために、小中の9年間を見通した支援の在り方を考える必要がある。 |

| ⑦ 事業の展開 (A) | 方向性 | | | | | | |
|-------------|-----------|----------|----------|----------|--|--|--|
| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | | | |
| 継続(現状維持) | 成果判定 A | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | | | |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | | | |

【履歴】

| ⑦ 事業の展開 (A) | 方向性 | |
|-------------|--|---|
| | 現状どおり事業を継続する | 改善・見直し内容 |
| | 令和7年度で対応する(した)もの 教育支援委員会において、個々の児童の実態を把握し、必要な支援を検討した上で、継続的な支援を実施する。また、多様な学びに対応するための人材を確保し、特別支援学級に在籍する児童だけでなく、校内教育支援センターに通う児童を含め、幅広い支援を行う。 | 令和8年度以降で対応するもの 介助員、校内教育支援センター支援員、看護師の人材確保に努め、支援体制の充実を図る。 特別支援学級に在籍する児童だけでなく不登校や校内教育支援センター支援員に通う児童を含め、9年間を見通した目標設定を行い、多様な学びに対応した支援を行う。 |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 学事教職員GL 加藤 剛 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|-----|---------------|---------|----|---|---------|---|--------|---|---------|---|----------|
| 計画コード | 22082 | 事業名 | 個の学び支援事業(中学校) | 評価分類 | A1 | | | | | | | | |
| 事業手法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | | | | | | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | | | | | | | | | | | | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | | | | | | | | | | | |
| 施策の方向 | 05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | | | | | | | | | | | | |
| 重点プロジェクト | 04:「未来へのトラ」プロジェクト | | | | | | | | | | | | |
| 事業期間 | H 20 年度 | ～ | R 年度 | 主な根拠法令等 | | | | | | | | | |
| ①基本事項 | <table border="1"> <tr> <td>予</td> <td>01:一般会計</td> </tr> <tr> <td>算</td> <td>10:教育費</td> </tr> <tr> <td>科</td> <td>03:中学校費</td> </tr> <tr> <td>目</td> <td>01:学校管理費</td> </tr> </table> | | | | | 予 | 01:一般会計 | 算 | 10:教育費 | 科 | 03:中学校費 | 目 | 01:学校管理費 |
| 予 | 01:一般会計 | | | | | | | | | | | | |
| 算 | 10:教育費 | | | | | | | | | | | | |
| 科 | 03:中学校費 | | | | | | | | | | | | |
| 目 | 01:学校管理費 | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------|--|
| ②事業概要(P) | <p>事業の必要性(経緯・背景等) 特別な支援を必要とする生徒が増加しており、別室での個別対応など、支援の内容も多様化している中、生徒の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。</p> <p>事業の対象(誰に、何に対して) 中学校の特別支援学級に在籍する生徒および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする生徒</p> <p>事業の目的(どのような状態にしたいのか) 学習上又は生活上の困難を改善・克服するため必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする生徒が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。</p> <p>事業の内容(どのような取組を行うのか) 各学校の状況に応じて、介助員、学習生活相談員、看護師、校内教育支援センター支援員を配置する。</p> |
|----------|--|

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|---|---|---|---|
| 事業計画 | <p>○介助員の配置</p> <p>○学習生活相談員の配置</p> | <p>○介助員の配置</p> <p>○学習生活相談員の配置</p> | <p>○介助員の配置</p> <p>○学習生活相談員の配置</p> <p>○看護師の配置</p> | <p>○介助員の配置</p> <p>○校内教育支援センター支援員の配置</p> |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | <p>特別な支援を必要とする生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう、介助員及び学習生活相談員を適切に配置した。</p> <p>○介助員:3中学校 8人配置</p> <p>○学習生活相談員:3中学校 3人配置</p> | <p>特別な支援を必要とする生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、介助員及び学習生活相談員を適切に配置した。</p> <p>○介助員:3中学校 7人配置</p> <p>○学習生活相談員:3中学校 3人配置</p> | <p>特別な支援を必要とする生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、介助員及び学習生活相談員を適切に配置した。</p> <p>○介助員:2中学校 6人配置</p> <p>○学習生活相談員:3中学校 4人配置</p> | |
| 事業費 | 17,800千円 | 17,800千円 | 23,000千円 | 17,500千円 |
| 国・県支出金 | 0千円 | 0千円 | 650千円 | 0千円 |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| その他 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 一般財源 | 17,800千円 | 17,600千円 | 22,350千円 | 17,500千円 |
| 事業費 | 15,753千円 | 16,976千円 | 18,166千円 | 18,166千円 |
| 国・県支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| その他 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 一般財源 | 15,753千円 | 16,976千円 | 18,166千円 | 18,166千円 |
| ①期間内計画額(R4-7) | 77,700千円 | ②期間外計画額(R8-) | - | ①+②総計画額 |
| | | | | 77,700千円 |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 18,489千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| 指標名 | | 説明等 | | | | | | | |
|----------|-------------|-------------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|
| ④ 指標 (C) | 介助員の配置率 | 教育支援委員会の判定に基づく介助員数に対する配置率 | 種別 | 単位 | 区分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| | 支援情報の引継ぎの割合 | 個別の指導計画等を作成し引継ぎができていない生徒の割合 | 成果 | % | 計画値 実績値 | 100 100 | 100 100 | 100 100 | 100 100 |
| | 学校生活の満足度 | 学校満足度調査における支援を必要とする生徒の保護者の満足度 | 成果 | % | 計画値 実績値 | 95 94 | 95 90 | 95 89 | 95 89 |

| 判定 | 事業の実施により得られた成果(誰に(何に)対して)どのような効果があったか | 事業の対象 | 事業の目的 |
|---------------|--|---|---|
| A 十分な成果を得た | 事業実施により、特別支援学級に在籍する生徒の学習面・生活面の支援を行うことができた。また、特別支援学級以外の特別な支援を必要とする生徒に対しても、学習生活相談員による支援を行うことができた。学校満足度調査では、保護者の約90%が満足と回答しており、生徒が安心して安全に学校生活を送ることにつながった。また、特別支援学級に在籍する中学校3年生の生徒については、それぞれの進路につなげることができた。 | 中学校の特別支援学級に在籍する生徒および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする生徒 | 学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする生徒が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。 |

(再掲)

| 課題 (C) | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
|----------|---|
| ⑥ 課題 (C) | 多様な支援を必要とする生徒が増加する中、特別支援学級に在籍する生徒だけでなく、校内教育支援センターに通う生徒への支援も含め、多様な学びと支援に対応できる体制の構築が求められる。途切れない支援を行うために、小中の9年間を見通した支援の在り方を考える必要がある。 |

| 事業の展開 (A) | 方向性 |
|-------------|--|
| ⑦ 事業の展開 (A) | <p>継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する</p> <p>改善・見直し内容</p> <p>令和7年度で対応する(した)もの 介助員、校内教育支援センター支援員、看護師の人材確保に努め、支援体制の充実を図る。 特別支援学級に在籍する生徒だけでなく不登校や校内教育支援センター支援員に通う生徒を含め、9年間を見通した目標設定を行い、多様な学びに対応した支援を行う。</p> |

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------|----------|----------|----------|----------|
| 成果判定 | A | A | A | |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) |

(履歴)

| | |
|-------|-----------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 学事教職員GL 加藤 剛 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | | | |
|----------------|---|----------------------|---------------------|-------------|----|
| 計画コード | 22077 | 事業名 | 学力向上推進事業 | 評価分類 | A1 |
| 事業手法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 |) | | | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | | | | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | | | |
| 施策の方向 | 03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | | | | |
| 重点プロジェクト | 04:「未来へのトラ」プロジェクト | | | | |
| 事業期間 | H 27 年度 | ～ | R - 年度 | 第3期教育振興基本計画 | |
| 事業の必要性(経緯・背景等) | 事業の対象(誰に、何に対して) | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) | 事業の内容(どのような取組を行うのか) | | |

| | | | | |
|--------|--|----------------------------|---|---|
| ① 基本事項 | <p>全国学力・学習状況調査等によって明らかになった「わかったことや考えたことなどをまとめて表現する」等の課題を解決し、児童生徒一人ひとりの学力向上を図るため、「亀山市学校教育ビジョン」「亀山市学力向上推進計画」に基づいた取組を推進する必要がある。</p> | <p>小・中学校及び中学校の児童・生徒・教員</p> | <p>事業の目的(どのような状態にしたいのか) 教職員の指導力の向上と授業改善を行い、児童生徒の学力の向上と定着を図る。また、中学校への運動部支援員を派遣し、教職員の授業準備や研修の時間を確保する。</p> | <p>事業の内容(どのような取組を行うのか) 教職員への各種研修会の開催のほか、国語科共通テストや「かめやまっ子チャレンジ」を実施し、教職員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。また、中学校へ運動部活動支援員を派遣し、教職員の負担軽減を図る。さらに、「学力向上推進計画」の改訂を行う。</p> |
|--------|--|----------------------------|---|---|

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|---|---|---|--|
| 事業計画 | <p>○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第4版】の策定</p> | <p>○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣</p> | <p>○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣</p> | <p>○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第5版】の策定</p> |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | <p>教職員への学力向上研修会を2回開催した。国語科共通テストについて小3～小6の単元ごとに共通テストを作成し、各校当該学年で実施した。(年20回程度)運動部活動支援員として5名の登録があり、累計268回実施した。学力向上推進計画【第4版】の策定を完了した。</p> | <p>学力向上推進計画第4版の取組を進めた。説明動画等を作成し、全教職員から月までに各校研修会で視聴した。教職員の浅い経験に主体的に研修を行う機会を年間6回行った。国語科共通テストについて小3～小6の単元ごとに「読む・読み取る力」に重点を置いた共通テストを作成した。(年20回程度)運動部活動支援員は、5名の登録があり、累計395回実施した。</p> | <p>学力向上推進計画第4版の取組を進め、担当者会やステップアップ研修会等で説明・周知を図った。教職員の浅い経験に主体的に研修を行う機会を年間4回設けた。小3～小6の単元ごとに「読む・読み取る力」に重点を置いた共通テストを作成し、年間約20回実施した。運動部活動支援員は5名を登録し、累計313回の支援を実施した。</p> | |
| 事業費 | 2,000千円 | 1,800千円 | 1,800千円 | 2,400千円 |
| 予 算 額 | <p>国・県支出金 0千円 地方債 0千円 その他 0千円 一般財源 2,000千円</p> | <p>1,800千円</p> | <p>1,800千円</p> | <p>1,550千円 2,400千円</p> |
| 決 算 額 | <p>国・県支出金 0千円 地方債 0千円 その他 0千円 一般財源 1,266千円</p> | <p>1,549千円 0千円 0千円 0千円 1,549千円</p> | <p>1,228千円 0千円 0千円 0千円 1,228千円</p> | <p>1,228千円 0千円 0千円 0千円 1,228千円</p> |
| ①期間内計画額(R4-7) | 8,000千円 | | | ②期間外計画額(R8-) |
| | | | | ①+②総計画額 8,000千円 |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|---------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 1,550千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| ④ 指標 (C) | 指標名 | 説明等 | 令和4年度 | | 令和5年度 | | 令和6年度 | | 令和7年度 | |
|-----------------|--------------------------------|-----|-------|----|-------|-----|---|-----|-------|---|
| | | | 種別 | 単位 | 区分 | 計画値 | 実績値 | 計画値 | 実績値 | 計画値 |
| 全国学力・学習状況調査の正答率 | 全国平均と比較して-5ポイント以内の問題の割合 | | 成果 | % | 計画値 | 72 | 小学校94中学校74 小学校96中学校74 小学校98中学校76 小学校100中学校78 | 実績値 | 64 | 小学校94中学校72 小学校96中学校72 小学校98中学校74 小学校100中学校78 |
| | | | 活動 | 回 | 計画値 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| 運動部活動支援員の派遣回数 | 中学校への運動部活動支援員の派遣回数 | | 成果 | % | 計画値 | 53 | 79.0 | 実績値 | 62 | 50 |
| | | | 活動 | 回 | 計画値 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| 授業理解度 | 学校での授業を理解している子どもの割合(学校評価アンケート) | | 成果 | % | 計画値 | 88 | 小学校91中学校88 小学校91中学校88 小学校92中学校89 小学校92中学校89 | 実績値 | 87.2 | 小学校90中学校87.2 小学校90.2中学校88.3 小学校90.8中学校86.4 |
| | | | 活動 | 回 | 計画値 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |

| 事業の目的 | 事業の対象 |
|-------------------|-------------------|
| 小学校及び中学校の児童・生徒・教員 | 小学校及び中学校の児童・生徒・教員 |

(再掲)

| | |
|-----------|--|
| ⑤ 成果 (C) | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか) |
| B | 学力向上研修会を開催し、指導力の向上と授業改善につなげることができた。また、「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディチェック」の結果を分析し、各校の「学力向上推進計画」の見直すとともに、取組シートの報告を2回実施した。これにより、授業改善に向けた具体的な取組を各校で進めることができた。 |
| ますます成果を働た | |

| | |
|----------|--|
| ⑥ 課題 (C) | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
| | 学力向上研修会やステップアップ研修会等の開催は教員の指導力向上につながるため、継続して実施する必要がある。また、児童生徒の学習課題を明確にし、重点的な取組を進めるため、学力向上推進計画の見直しを行う必要がある。さらに、児童生徒の個別最適な学びに対応した学習教材の整備が求められる。 |

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|-------|----------|----------|----------|
| 成果判定 | A | B | B |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) |

【履歴】

| | | |
|---|--|-----|
| ⑦ 事業の展開 (A) | 現状どおり事業を継続する | 方向性 |
| 継続(現状維持) | 改善・見直し内容 | |
| 令和7年度で対応する(した)もの | 令和8年度以降で対応するもの | |
| 学力向上強化週間として「Kameyama Study Week」を継続実施するとともに、市教育委員会作成の「亀ハタドリル」を対象児童生徒へ毎月継続実施する。さらに児童生徒の学習課題を明確にした「学力向上推進計画第5版」を策定し、多様な学びに対応したA型学習教材の導入を検討する。 | 令和7年度の実施状況を踏まえ、必要に応じて教職員の指導力向上と授業改善に向けた措置を講じる。 | |

| | |
|-------|------------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援GL 北川 恵美子 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | | | |
|---------|--|-----|-----------|------|----|
| 計画コード | 22078 | 事業名 | 学校図書館支援事業 | 評価分類 | A1 |
| 事業手法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他 | | | | |
| ① 基本事項 | 施策の大綱 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 基本施策 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 重点プロジェクト 04:「未来へのトラ」プロジェクト 事業期間 H 21 年度 ～ R 年度 主な根拠法令等 子どもの読書活動の推進による法律 | | | | |
| 予 算 科 目 | 01:一般会計 10:教育費 08:教育研究費 01:教育研究費 | | | | |
| 部 | 担当部署 教育委員会事務局 | | | | |
| 課 | 学校教育課 教育支援G | | | | |

| | | | | |
|------------|---|--|--|---|
| ② 事業概要 (P) | 事業の必要性(経緯・背景等) 子どもたちの読書離れが年々進む中、学習指導要領において、学校図書館機能の充実と計画的な活用が求められており、児童生徒が自主的・発的に本に親しむことができるよう、学校図書等と連携して読書活動を推進する必要がある。 | 事業の対象(誰に、何に対して) 市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者 | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) 学校図書館活動の充実と読書の適切な更新により、児童生徒の読書習慣の確立と、読書の質の向上が図られる。また、家庭における読書習慣の定着が図られる。 | 事業の内容(どのような取組を行うのか) 学校図書館情報システムの運用と管理を行うとともに、学校図書等の配置や学校図書館活用アドバイザーの派遣を行う。また、ファミリー読書リー、読書ラリー、読書チャレンジを実施する。 |
|------------|---|--|--|---|

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|---|---|---|--|
| 事業計画 | ○学校図書館情報システム管理 ○学校図書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書ラリー・読書チャレンジの実施 | ○学校図書館情報システム管理 ○学校図書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書ラリー・読書チャレンジの実施 | ○学校図書館情報システム管理 ○学校図書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書ラリー・読書チャレンジの実施 | ○学校図書館情報システム管理 ○学校図書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書ラリー・読書チャレンジの実施 |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | 学校図書館情報システムを適切に運用した。学校図書6名を14校全ての小中学校に配置するとともに、図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1.2回程度、14校に計168日派遣した。読書ラリーを幼稚園4園と小学校低学年を対象に、2学期に10週間程度実施したほか、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園(年長児)、全小学校(全学年)で実施した。 | 学校図書館情報システムを適切に運用した。学校図書6名を全小中学校に配置するとともに、学校図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1.2回程度、14校に計168日派遣した。読書ラリーを幼稚園4園と小学校低学年を対象に、2学期に10週間程度実施したほか、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園(年長児)、全小学校(全学年)で実施した。市立図書館との連携を進め、相互貸借事業「ほんくる。」も運用を開始した。 | 学校図書館情報システムを適切に運用した。学校図書6名を全小中学校に配置し、更に学校図書館活用アドバイザーを各校に月1～2回程度、14校に計168日派遣した。読書ラリーを幼稚園4園と小学校低学年で2学期に10週間程度実施し、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園(年長児)、全小学校(全学年)で実施した。市立図書館との連携を進め、相互貸借事業「ほんくる。」を継続し、「かめやま電子図書館」の運用を開始した。 | |
| 事業費 | 14,600千円 | 14,000千円 | 14,000千円 | 10,000千円 |
| 予 算 額 | 国・県支出金 0千円 地方債 0千円 その他 0千円 一般財源 14,600千円 | 14,000千円 849千円 | 14,000千円 13,780千円 | 10,000千円 12,977千円 |
| 決算額 | 国・県支出金 0千円 地方債 0千円 その他 0千円 一般財源 13,530千円 | 14,182千円 849千円 0千円 0千円 13,333千円 | 14,000千円 13,540千円 | 10,000千円 12,977千円 0千円 0千円 12,977千円 |
| ①期間内計画額(R4-7) | 52,600千円 | | | ①+②総計画額 52,600千円 |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|----------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 13,540千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| ④ 指標 (C) | 指標名 | 説明等 | 令和6年度予算額の内訳 | | | | | | |
|----------|--------------------------------|--|-------------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|
| | | | 種別 | 単位 | 区分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| | 学校図書館を活用した授業を、全学年が月1回以上実施した学校数 | 児童生徒1か月の一人当たりの図書貸出冊数 平日授業時間以外の読書時間「10分以上」と回答したの子どもの割合(全 国学力学習状況調査 児童生徒質問紙) | 活動 | 校 | 計画値 | 14 | 14 | 14 | 14 |
| | | | | 実績値 | 14 | 14 | 14 | 14 | |
| | 児童生徒読書数 | | 成果 | 冊 | 計画値 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| | | | 成果 | % | 実績値 | 8 | 8 | 8 | 8 |

| | | | |
|----------|-----------|---|---|
| ⑤ 成果 (C) | 判定 | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか) | 事業の目的 |
| | B | 学校図書や図書館アドバイザーの配置により、読書指導の充実や図書館活用指導に取り組み、児童生徒の読書習慣の確立と読書の質の向上につながった。また、読書リーダーや読書チャレンジの取組を通じて、家庭での読書習慣の定着につなげた。 | 市内幼稚園、小学校及び中学校の児童・児童・生徒・保護者 学校図書館活動の充実と蔵書の適切な更新により、児童生徒の読書習慣の確立と、読書の質の向上が図られる。また、家庭における読書習慣の定着が図られる。 |
| | まずまず成果を得た | (再掲) | |

| | |
|----------|---|
| ⑥ 課題 (C) | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
| | 学校図書館の蔵書数は基準を満たし、貸出冊数等は全国平均を上回っているものの、児童生徒の読書数には学校差や個人差がある。そのため、各校の図書担当者が学校図書や学校図書館活用アドバイザーと連携し、児童生徒や家庭に多様な図書館活用方法や貸出方法を周知・啓発していく必要がある。 |

| | |
|-------------|--|
| ⑦ 事業の展開 (A) | 方向性 |
| | 継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する |
| | 改善・見直し内容 |
| | 令和7年度で対応する(した)もの 学校図書館アドバイザーの派遣を継続し、図書利用促進のための読書指導や調べ方学習指導など、教職員向け研修会の内容等を充実させる。また、各校の図書担当者会を開催し、図書館活用指導の推進を図る。さらに、読書の幅を広げるため、相互貸借や電子図書館の利用を促進する。 |
| | 令和8年度以降で対応するもの 令和7年度の実施状況を踏まえ、児童生徒の読書習慣の確立と読書の質の向上に向け、必要に応じて改善・見直しを進める。 |

| | | | | |
|------|----------|----------|----------|-------|
| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| 成果判定 | A | B | B | |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | |

【履歴】

| | |
|-------|------------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援GL 北川 恵美子 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | |
|----------|---|--|--|
| 計画コード | 22083 | 事業名 | 生活困窮者自立支援事業(学習支援事業) |
| 事業手法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他() | 評価分類 | A1 |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 担当部署 | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | 部 | 教育委員会事務局 |
| 施策の方向 | 05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | 課 | 学校教育課 教育支援G |
| 重点プロジェクト | 04:「未来へのトビラ」プロジェクト | | |
| 事業期間 | H 27 年度 ~ R - 年度 | 主な根拠法令等 | 生活困窮者自立支援法 |
| ① 基本事項 | 事業の必要性(経緯・背景等) 生活困窮者自立支援法において「子どもの学習支援の強化」が挙げられている中、家庭生活が困難であったり、家庭での学習環境が厳しかったりする児童生徒の学習・生活習慣の改善や基礎学力の定着を図り、生徒の意思に沿った進学を支援する必要がある。 | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) 家庭の経済状況によって子どもたちの学びに差が生じないよう学習の支援を行い、学習習慣の確立と学力向上を目指すとともに、主体的に進路を選択できる力を身に付けさせる。 | 事業の内容(どのような取組を行うのか) 講師及びスタッフを配置し、集合型の学習支援を行うほか、集合型の教室に通う手段がない児童生徒に対する訪問型の学習支援を行う。 |

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|---|---|---|--|
| 事業計画 | ○講師・スタッフの配置 ○学習教室の実施、学習指導 | ○講師・スタッフの配置 ○学習教室の実施、学習指導 | ○講師・スタッフの配置 ○学習教室の実施、学習指導 | ○講師・スタッフの配置 ○学習教室の実施、学習指導 |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | 講師・スタッフの登録・配置については、受講者数に合わせた人数を配置することができた。(年度末時点で23名登録)毎週の通常開催に加えて、テスト対策教室、夏休みお試し体験教室など、合計168回開催した。学習指導については、基本的には自学自習を進めているが、どの教室も1対1の丁寧な個別指導ができた。 | 対象者を就学援助家庭だけでなく、長期欠席者・外国人児童生徒も対象に加えた。受講者に対して、十分な講師・スタッフの登録・配置することができた。(年度末時点で32名登録)毎週土曜日の通常開催に加えて、テスト対策教室や体験教室など3教室で合計171回開催した。 | 対象者を就学援助家庭だけでなく、長期欠席者・外国人児童生徒も対象に加えた。受講者に対して、十分な講師・スタッフの登録・配置することができた。(年度末時点で29名登録)毎週土曜日の通常開催に加えて、テスト対策教室や体験教室など3教室で合計145回開催した。 | |
| 事業費 | 3,900千円 1,800千円 0千円 0千円 2,100千円 | 3,900千円 1,800千円 2,100千円 2,344千円 3,321千円 | 3,900千円 1,800千円 2,100千円 2,454千円 1,800千円 | 3,900千円 1,800千円 2,100千円 1,857千円 929千円 0千円 0千円 928千円 |
| 決算額 | 国・県支出金 1,457千円 0千円 0千円 1,457千円 | 国・県支出金 1,900千円 0千円 0千円 1,421千円 | 国・県支出金 1,900千円 0千円 0千円 1,421千円 | 国・県支出金 1,900千円 0千円 0千円 1,421千円 |
| ①期間内計画額(R4-7) | 15,600千円 | ②期間外計画額(R8-) | - | ①+②総計画額 15,600千円 |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|---------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 2,454千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| ④ 指標 (C) | 指標名 | 説明等 | 種別 | 単位 | 区分 | | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------|------------|------------------|----|----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|
| | | | | | 計画値 | 実績値 | | | | |
| | 学習教室への参加人数 | 学習教室への申込者数の合計 | 成果 | 人 | 計画値 | 25 | 25 | 30 | 30 | |
| | | | | | 実績値 | 45 | 49 | 46 | | |
| | 学習教室実施回数 | 実施回数(集合型)の合計 | 活動 | 回 | 計画値 | 120 | 120 | 120 | 120 | |
| | | | | | 実績値 | 168 | 171 | 145 | | |
| | 対象家庭への勧誘回数 | 対象家庭への参加を働きかけた回数 | 活動 | 回 | 計画値 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | | | 活動 | 回 | 実績値 | 3 | 3 | 3 | 3 | |

| | | | |
|----------|--------------------------------------|--|----------|
| ⑤ 成果 (C) | 判定 | A | 十分な成果を得た |
| | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか) | 対象児童生徒には、少人数での学習指導が行われ、落ち着いて学習できる環境が整い、学習習慣の定着につながった。テスト対策教室には中学生の参加が多く、小学生の受講生も増加し、週末の家庭学習の習慣化につながっている。また、各教室のコーディネーターと密に連携し、各教室の情報共有や各中学校との連携を図った。中学3年生の受講者は、希望する進学先へ進むことができた。 | |

| | |
|--------------------------|--|
| 事業の目的 | 事業の目的 |
| 事業の対象 | 事業の目的 |
| 事業の理由で家庭での学習環境が整いにいっい小学生 | 家庭の経済状況によって子どもたちの学びに差が生じないよう学習の支援を行い、学習習慣の確立と学力向上を目指すとともに、主体的に進路を選択できる力を身に付けさせる。 |

(再掲)

| | |
|----------|--|
| ⑥ 課題 (C) | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
| | 講師スタッフの高齢化が進み、講師の数も減少していることが課題となっている。また、利用者の学び方が多様化しており、個々の学習ニーズに柔軟に対応する必要がある。 |

| | |
|-------------|--|
| ⑦ 事業の展開 (A) | 方向性 |
| | 継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する |
| | 改善・見直し内容 |
| | 令和7年度で対応する(した)もの 利用者の学び方の多様化に対応するために、学習支援の在り方を再考する。 |
| | 令和8年度以降で対応するもの 令和7年度の検討状況を踏まえ、利用者のニーズに即した学習支援の在り方を構築する。 |

| | | | | |
|------|----------|----------|----------|-------|
| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| 成果判定 | A | A | A | |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | |

【履歴】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援GL 北川恵美子 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | |
|--------|---|----------------------------|-----------|
| 計画コード | 22084 | 事業名 | 少人数教育推進事業 |
| 事業手法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他() | | |
| ① 基本事項 | 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | |
| | 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | |
| | 施策の方向 | 05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | |
| | 重点プロジェクト | 04:「未来へのトビラ」プロジェクト | |
| 事業期間 | H 21 年度 ~ R - 年度 | 主な根拠法令等 | |

| | |
|------|----------|
| 評価分類 | A1 |
| 担当部署 | 教育委員会事務局 |
| 部 | 学校教育課 |
| 課 | 学事教職員G |

| | |
|------------|---|
| ② 事業概要 (P) | <p>事業の必要性(経緯・背景等) 児童生徒へのきめ細かな指導と授業理解度の向上を図るため、過密学級(1学級35人以上)を解消し、少人数教育を推進する必要がある。</p> <p>事業の対象(誰に、何に対して) 過密学級(1学級35人以上)となる小学校及び少人数教育に取り組む学校</p> <p>事業の目的(どのような状態にしたいのか) 児童・生徒の実態に応じたきめ細かな指導により、授業理解度が向上している。</p> <p>事業の内容(どのような取組を行うのか) 少人数教育推進教員として、常勤講師、非常勤講師を各学校の状況に応じて配置し、過密学級を解消するとともに、少人数教育(学級分割、ティーム・ティーチング、少人数単独指導、個別支援、専科指導)を行う。</p> |
|------------|---|

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----------------------|--|---|---|-------------------|
| 事業計画 | ○少人数教育推進教員(講師)の配置 | ○少人数教育推進教員(講師)の配置 | ○少人数教育推進教員(講師)の配置 | ○少人数教育推進教員(講師)の配置 |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | 少人数教育推進教員として、常勤講師4名を3小学校に、非常勤講師を5名を1小学校と3中学校にそれぞれ配置した。 | 少人数教育推進教員として、常勤講師4名を4小学校に、非常勤講師4名を1小学校と3中学校にそれぞれ配置した。 | 少人数教育推進教員として、常勤講師2名を1小学校と1中学校に、非常勤講師2名を2小学校にそれぞれ配置した。 | |
| 事業費 | 26,700千円 | 26,700千円 | 18,900千円 | 800千円 |
| 予 算 額 | 26,700千円 | 20,210千円 | 9,454千円 | |
| 国・県支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| その他 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 一般財源 | 26,700千円 | 20,210千円 | 18,900千円 | 800千円 |
| 事業費 | 26,700千円 | 19,502千円 | 9,367千円 | |
| 国・県支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| その他 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| 一般財源 | 26,700千円 | 19,502千円 | 9,367千円 | |
| ①期間内計画額(R4-7) | 73,100千円 | ②期間外計画額(R8-) | - | ①+②総計画額 |
| | | | | 73,100千円 |

令和6年度 主要事業評価シート

| | | | |
|----------|--|---------|-------------------------------|
| 計画コード | 22085 | 事業名 | 校務支援システム事業 |
| 事業手法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 施策の大綱 | 04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | | |
| 基本施策 | 01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | |
| 施策の方向 | 05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | | |
| 重点プロジェクト | - | | |
| 事業期間 | R 4 年度 ~ R - 年度 | 主な根拠法令等 | 学校教育の情報化の推進に関する法律・第3期教育振興基本計画 |

| | |
|------|----------|
| 評価分類 | A1 |
| 担当部署 | 教育委員会事務局 |
| 部 | 学校教育課 |
| 課 | 学事教職員G |

| 事業の必要性(経緯・背景等) | 事業の対象(誰に、何に対して) | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) | 事業の内容(どのような取組を行うのか) |
|---|-----------------------------|--|--|
| 学校を取り巻く課題が複雑化・多様化し、教員に求められる役割が拡大している中、一方で、教育活動のさらなる充実が求められていることから、教職員の業務の負担軽減や効率化を図り、教育の質の向上を図る必要がある。 | 事業の対象(誰に、何に対して) 小中学校の教職員 | 事業の目的(どのような状態にしたいのか) 統合型校務支援システムを活用し、教職員の業務の軽減と効率化を図ることにより、教職員が児童生徒と向き合う時間や、教材研究の時間を確保する。 | 事業の内容(どのような取組を行うのか) 教職員の校務用パソコンに統合型校務支援システムのソフトウェアを導入し、学校で取り扱う様々な情報の一元管理を行う。また、システム導入・活用に係る研修を行う。 |

| 年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------------------------------|--|---|---|---|
| 事業計画 | <input type="checkbox"/> 統合型校務支援システムの導入・運用 <input type="checkbox"/> システム導入に係る研修 <input type="checkbox"/> システム活用に係る研修 | <input type="checkbox"/> 統合型校務支援システム運用 <input type="checkbox"/> システム活用研修 | <input type="checkbox"/> 統合型校務支援システム運用 <input type="checkbox"/> システム活用研修 | <input type="checkbox"/> 統合型校務支援システム運用 <input type="checkbox"/> システム活用研修 |
| 活動実績 (計画通り実施できたか) | 令和5年1月よりシステムの試行を開始するとともに、本格実施に向け、各校にて基礎情報の登録作業等を行った。また、システム導入に係る研修を3回、システム活用に係る研修を14回(各校1回)実施した。 | 令和5年4月よりシステムの本格運用を開始した。また、システム活用に係る研修を7回実施したほか、教職員へのアンケート調査を各学期末に実施した。 | システムの「掲示板」「メッセージ」機能の活用頻度を増やした。システムを活用して卒業証書を作成した。各校の実態に応じて、研修会を実施した。 | |
| 事業費 | 19,300千円 | 6,500千円 | 6,500千円 | 6,500千円 |
| 国・県支出金 地方債 その他 一般財源 | 0千円 0千円 0千円 6,149千円 | 0千円 0千円 0千円 3,806千円 | 0千円 0千円 0千円 3,806千円 | 0千円 0千円 0千円 3,806千円 |
| 決算額 | 38,800千円 | 11,300千円 | 11,300千円 | 50,100千円 |
| ①期間内計画額(R4-7) | ②期間外計画額(R8-) | | ①+②総計画額 | |

(令和6年度予算額の内訳)

| | |
|-----------|---------|
| 前年度からの繰越額 | 0千円 |
| 当年度の最終予算額 | 3,806千円 |
| 次年度への繰越額 | 0千円 |

| ④ 指標 (C) | 指標名 | 説明等 | 種別 | | | | | | |
|--------------|------------------------------|-----|----|-----|-------|-------|-------|-------|--|
| | | | 単位 | 区分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | |
| 会議・打ち合わせ数の削減 | 朝・放課後の打ち合わせ、会議の削減数(令和3年度比較) | | 回 | 計画値 | 10 | 15 | 20 | 25 | |
| | | | | 実績値 | 0 | 15 | 21 | | |
| 年間総勤務時間の削減 | 教職員一人あたりの総勤務時間の削減時間(令和3年度比較) | | 時間 | 計画値 | 20 | 40 | 60 | 80 | |
| | | | | 実績値 | 8 | △24 | △38 | | |

| | | | | |
|----------|----|---|----------|--|
| ⑤ 成果 (C) | 判定 | 事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか) | 事業の対象 | 事業の目的 |
| | B | 「揭示板」機能等を活用し、各校の打合せ・会議数を削減した。システムを有効活用するため、学校の実態に応じた研修会を各校2回以上実施した。また、卒業証書の作成や「メッセージ」機能の活用を通じて、校務の負担軽減につながったが、生徒指導や保護者対応に時間を要するため、教職員一人あたりの総勤務時間は令和3年度と比べて増加した。 | 小中学校の教職員 | 統合型校務支援システムを活用し、教職員の業務の軽減と効率化を図ることにより、教職員が児童生徒と向き合う時間や、教材研究の時間を確保する。 |
| | | まずまず成果を働た | | |

(再掲)

| | |
|----------|--|
| ⑥ 課題 (C) | 事業の達成状況等を踏まえた課題事項 |
| | 令和3年度と比べ、生徒指導や保護者対応が増加していることから、児童生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう、研修会等を通じて教職員の更なる資質向上を図る必要がある。また、コロナ禍と比較して学校行事が増加しているため、学校行事や教職員の業務の見直しを行い、精選する必要がある。今後、システム導入による成果や効果及び課題の把握を教職員アンケート等により把握するとともに、システムの効果的な活用方法等に関する好事例の紹介等しながら教職員の業務改善につなげていく必要がある。 |

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------|----------|----------|----------|----------|
| 成果判定 | A | B | B | |
| 事業展開 | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) |

【履歴】

| | |
|-------------|---|
| ⑦ 事業の展開 (A) | 方向性 |
| | 継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する |
| | 改善・見直し内容 |
| | 令和7年度で対応する(した)もの 令和8年度以降で対応するもの 委託業者と連携し、システムの活用事例等を市内小中学校で共有することで、業務の効率化を図る。 打合せ事項や回覧・揭示物等のデータ化を進め、業務の効率化と改善を図る。 システムの活用による成果や効果及び課題を教職員アンケート等により把握できるようにする。 |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 1次評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課 学事教職員GL 加藤 剛 |
| 最終評価者 | 教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏 |

令和6年度決算における標準事業評価一覧表

| 事業番号 | 大綱 | 事業名 (評価事業名) | 担当部署 | 目的・概要 | 事業費 (予算額/決算額) | 実績・成果 | 成果 |
|-------|----------|-------------------|-----------------------------|--|------------------|--|----|
| 19148 | 04 01 01 | 特色ある学校づくり事業(小学校費) | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G | 学校運営協議会別に地域及び学校の中にある共通課題や、教育の課題について検討し、地域の教育力を高め、学校教育の改善を推進する。 | 2,990 / 2,959 | 学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学方向上など多岐にわたる内容の取組を進められた。 | A |
| 19149 | 04 01 01 | 特色ある学校づくり事業(中学校費) | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G | 学校運営協議会別に地域及び学校の中にある共通課題や、教育の課題について検討し、地域の教育力を高め、学校教育の改善を推進する。 | 740 / 697 | 学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学方向上など多岐にわたる内容の取組を進められた。 | A |
| 19182 | 04 01 01 | コミュニティスクール推進事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 学事教職員G | 保護者及び地域住民等が学校運営に参画することにより学校教育の充実を図り、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。 | 897 / 820 | 定期的に学校運営協議会を開催し、たよりを発行することで、活動内容等を周知することができた。 | A |
| 19008 | 04 01 02 | 施設整備費(小学校費) | 教育委員会事務局 教育総務課 教育総務G | 学習環境及び学校生活環境の向上を図るため、それぞれの学校状況に応じた施設整備を実施することにより、教育のための環境づくりを推進する。 | 25,867 / 23,505 | 関小学校1の洋式化改修や亀山西小学校防犯カメラの改修等、予定していた工事を執行し、学校生活環境の向上を図った。 | A |
| 19273 | 04 01 02 | 地場農畜産物利用推進事業 | 教育委員会事務局 教育総務課 保健給食G | 学校給食における地産地消を推進し、学校給食の充実を図るため、市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」の提供や、安全安心な学校給食の提供と食育推進に係る研修を実施する。 | 306 / 263 | 市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」を22回実施した。また、給食調理員を対象に衛生管理と調理実習の研修会を2回実施し、研修後は作業工程や調理器具の点検を行い、各学校現場での調理工程やメニューの改善を図ることができた。 | A |
| 19015 | 04 01 03 | 体育・文化活動支援事業(小学校費) | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G | 成長期にある子どもたちの豊かな創造性、情操の涵養と芸術文化活動の充実向上と、運動習慣及び体力の向上を図る。優れた音楽・芸術を鑑賞する機会を確保するとともに、体力向上に係る外部講師を学校へ派遣する。 | 1,519 / 1,450 | 亀山市文化会館と連携し、専門家を招聘し合唱指導の機会や様々な文化公演を行った。また、幼児や児童の体力向上をめざし、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣した。 | A |
| 19030 | 04 01 03 | 体育・文化活動支援事業(中学校費) | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G | 成長期にある子どもたちの豊かな創造性、情操の涵養と芸術文化活動の充実向上と、運動習慣及び体力の向上を図る。優れた音楽・芸術を鑑賞する機会を確保するとともに、体力向上に係る外部講師を学校へ派遣する。 | 418 / 309 | 亀山市文化会館と連携し、各校へ文化芸術活動の機会を設定することができた。専門家を招聘し、合唱指導の機会を設けることができた。 | A |
| 19033 | 04 01 03 | 中学校体験活動支援事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G | 中学生期における就労体験や交流学習などの健全育成を図る。 | 535 / 511 | 全ての中学校で就労体験を実施し、生徒の社会性等を育成することができた。 | A |

令和6年度決算における標準事業評価一覧表

| 事業番号 | 大綱 | 事業名 (評価事業名) | 担当部署 | 目的・概要 | 事業量 (予算額/決算額) | 実績・成果 | 成果 |
|-------|----------|----------------|----------------------------|---|------------------|--|----|
| 19105 | 04 01 03 | 幼児教育推進事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G | 就学前からの一貫した教育を実現するため、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教職員が連携し、きめ細やかな支援体制を整える。さらに保幼認・小間での交流活動や情報共有を行うための取組を推進する。 | 1,725 / 1,433 | 保幼認小間の切れ目のない教育をめざし、教職員が連携し、情報共有することで、きめ細やかな支援体制を整えることができた。各園の若年職員等の指導のための園訪問や研修会を行った。 | A |
| 19106 | 04 01 03 | 教職員研修事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G | 基礎的な学力の向上や学ぶ意欲を高めるため、教師の指導力を向上させ、授業改善や学習指導の確立の取組を推進するとともに、教職員研修を充実する。 | 1,276 / 1,132 | 基本研修を6回、教育課題別研修を15回、授業力向上研修を6回開催した。各校への外部講師や市教推各研究部の講師を計画的に派遣し、教職員の主体的な研修を支援した。 | A |
| 19271 | 04 01 03 | 道徳・人権教育推進事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G | 道徳教育や様々な体験活動を通して、心の発達・規範意識の醸成・問題行動の未然防止に取り組み。学校における人権教育に関する指導方法の改善及び充実に資することを目的とした実践的な研究を実施し、人権教育の一層の推進を図る。 | 317 / 174 | 差別事象の把握や人権・道徳に関わる各校への助言、市主催の人権研修会の実施とともに、子どもたちの実態に合わせた学習、フォーラム、研究授業の実施を通して、子どもたち同士が互いの意見を尊重し、多様性を認め合う姿が見られるなど成果があった。 | A |
| 19132 | 04 01 04 | 子育て学習展開事業 | 教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G | 家庭・地域の教育力の向上を図るために、保護者に対して学びの機会を提供し、子どもの育みを地域全体で支えていく学びの仕組みづくりを進める。 | 820 / 746 | 保育園等において、保護者対象の家庭教育出前講座を行った。 | A |
| 19111 | 04 01 05 | 適応指導教室事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G | 市内小中学校における不登校児童生徒の保護者に対する相談及び児童生徒の学習・生活指導等の支援を図る。 | 11,127 / 11,045 | 教育支援センターで児童生徒と保護者への相談を行った。教職員のスキル向上のため、研修会を開催した。子どもの居場所づくりのために「かめつ子サポート」に委託し体制強化を図った。 | A |
| 19116 | 04 01 05 | 生徒指導充実事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G | 生徒指導では、問題行動が複雑化・多様化し対応・解決が一層困難な事例も出てきている。その他には、個々の児童生徒の実態把握やいじめその他の問題行動の予防と対策を図る。 | 2,141 / 1,807 | 学校からの要請により、指導主事やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒の心のケアや関係性関との連携を進めた。 | A |
| 19259 | 04 01 05 | 特別支援教育推進事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育研究G | 発達障がいを含む全ての障がいのある幼児児童生徒の特別支援教育を総合的に推進する。 | 318 / 274 | 亀山市教育支援委員会を年間4回開催し、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室など、個に応じた学びの場への就学について、就学先の決定につなげることができた。 | A |
| 19286 | 04 01 05 | 外国人児童生徒教育支援事業 | 教育委員会事務局 学校教育課 教育支援G | 教室で学習を進める上で言語、学習内容を十分理解できず、学校生活にも困難をきたす外国人児童生徒への学習・生活支援や助言を行うとともに保護者への支援や相談体制も整える。 | 2,990 / 2,670 | 外国人児童生徒のいる学校へ外国人児童生徒支援員の配置とボランティアの派遣を行った。就学前の幼児や保護者に向けてプレスクールを開催したり、中学校卒業後の進路ガイダンスを開催したりした。 | A |

令和6年度決算における標準事業評価一覧表

| 事業番号 | 大綱 | 事業名 (評価事業名) | 担当部署 | 目的・概要 | 事業費 (予算額/決算額) | 実績・成果 | 成果 |
|-------|----------|----------------|----------------------------|---|------------------|---|----|
| 19099 | 04 01 06 | 青少年健全育成費 | 教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G | 青少年の健全育成のため、家庭・学校・地域において、青少年が安全かつ心豊かに成長できる社会環境づくりを行う。 | 4,095 / 3,872 | 令和6年8月21日～23日に青少年体験活動サマーカーニバルを実施した他、各社会教育団体の事業のサポート及び補助金を交付手続を行った。 | A |
| 19100 | 04 01 06 | 青少年総合支援センター費 | 教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G | 日常のハトロー活動及び、関係機関との連絡調整等を行い、当市における青少年の非行防止や環境浄化活動に努める。 | 8,750 / 7,980 | 補導員により児童・生徒の登下校時等のハトローを実施し、不審者情報などについて、迅速に特別ハトロー対応とした。また、地域の非行防止部会等と合同ハトローを実施した。 | A |
| 19101 | 04 01 06 | 二十歳の集い開催費 | 教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G | 二十歳の集い開催により青少年の社会人としての自立を促す。 | 580 / 496 | 令和7年1月12日に「二十歳の集い」を開催し、青少年の社会へ踏み出す第一歩のきっかけづくりに寄与した。 | A |
| 19047 | 05 02 01 | 婦人団体育成費 | 教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育G | 女性の活躍の場や家庭生活の向上を図るとともに、地域社会の発展に寄与することを目的とする、団体の活動を支援する。 | 890 / 850 | 会員の心身の健康づくりや会員相互の交流・親睦を図る「なでこ健康フェスティバル」の実施や明るく住みよいまちづくりを推進するため、地域に根差したボランティア活動に取り組んだ。 | A |

判定の判例【成果】 A:十分な成果を得た B:まずまず成果を得た C:あまり成果を得られなかった D:成果を得られなかった

4 学識経験者による評価

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、2名の学識経験者から意見をいただきました。

【意見をいただいた学識経験者】

^{みやざき}宮崎 ^こつた子氏（三重県立看護大学小児看護学教授）
^{つじ}辻 ^{のぶひさ}宣久氏（三重県立亀山高等学校校長）

（1）各施策に対する意見

別紙一覧のとおりです。

（2）総括意見

令和4年度に策定された第2次亀山市総合計画後期基本計画に基づき、施策の大綱、基本施策等に位置付けられた各事業が実施された。その進捗状況は、それぞれ目標値（計画値）を達成しつつ、市民アンケート結果では、おおよそ過去のものと比較して同等もしくは上昇しており、一定の成果は得られていると考えられる。引き続き、亀山市の様々な工夫や取り組みを活かし、事業計画の実施や実績値には見えない子ども達の姿を施策の方向性と合わせて丁寧に、根気よく確認しつつ、学校・家庭・地域と連携・協力しながら誰ひとり取り残さない学びの展開とその構築に取り組んでいただきたい。また、生涯学習として、市民への周知や市民の学びたいと思う多彩な講座の開講と継続により、地域課題の解決につながることを願う。

一方では、目標値に届いていない事業も見受けられる。「学校評価アンケートにおける授業理解度」や「学校評価アンケートにおける学校満足度」といった項目のように、目標値に近づけば近づくほど、実績値の伸びが鈍くなるような状況も見受けられ、目標値に向けどのような工夫や仕掛けをしていくかは大きな課題と考えられる。また、市民アンケートについても、「小中学校の施設や設備が整っている」や「青少年を見守り応援する活動が行われている」といった項目について、重要度が横ばいである一方、満足度が下降している項目も見受けられるため、市民の多様なニーズを的確に把握しつつ、関係者との連携強化、取り組みについての周知方法や広報のあり方なども検討されたい。

次に、基本施策「学びによる生きがいの創出」については、市民公民館講座は、多種多様な講座を実施できており、市民一人ひとりが学びを通して新たな生きがいを得るための機会を提供できている。また、中央公民館活動事業やかめやま人キャンパス展開事業においては、デジタル技術を活用した講座を開催し、実績値が順調に伸びていることから、地域のデジタル化の促進

や地域課題の解決に取り組む人材の掘り起こしに寄与したと評価できる。図書館関連事業についても、すでに令和6年10月に入館者数が50万人を超えるなど、入館者数の目標値を大きく上回っており、読書活動や市民交流の促進、子どもたちの読書習慣の定着、誰でも利用出来る市民の居場所の空間の創出を図ることができていると考えられる。

また、基本施策「子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実」については、それぞれの施策の方向ごとに次のとおりである。

「学びを支える温かさあふれる学校づくり」については、保護者や地域住民等が学校運営に参画し、学校づくりが円滑に進められていることが推察される。引き続き、学校運営協議会を中心に地域や学校の特色をいかした安心して学べる環境づくりが進むよう取り組まれない。また、放課後子ども教室については、参画した地域ボランティアの延べ人数が目標値を超えており、多様な体験・活動を行いつつ、地域の中で子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりとして、大きな成果があると考えられる。一方、運営に関わる支援者の高齢化や人材不足の課題は否めなく、今後は、多くの地域ボランティアの参画を促し、運営に関わる人も安心して事業に取り組めるよう継続して検討していただきたい。

「学びの環境の充実」については、予定していた工事や整備がなされ、学校生活環境の向上が図られた。また、中学校全員喫食制給食実施事業については、物価高騰などの課題等がある中で、努力と工夫を積み重ねられて成果をあげている。引き続き、学びの環境の充実に向け、整備内容等の検討、環境整備の着実な進捗を図りたい。

「希望を持って新しい時代に活躍できる子どもの育成」については、児童生徒の学力の向上を目的として、教職員研修による指導力の向上と授業改善を図る取り組み、授業準備や研修時間の確保等が継続的に実施されており、今後の教職員のさらなる意識改革と個々の教職員の意欲向上にも繋がると考えられる。また、保幼認小連携による段差の少ない教育に取り組み、学校図書館の充実、一人一台端末の活用等により、児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業改善が図られたと評価される。めまぐるしく変化する時代や社会情勢に適応するためにもさらなる充実を望む。

「家庭・地域の教育力の向上」については、「亀山っ子」市民宣言や「かめやまお茶の間10選（実践）」の継続的な取組は、家庭や地域の意識の醸成になり、地域全体で子どもたちの学びの基礎力・教育力の向上に繋がる重要な活動である。引き続き家庭教育の重要性について意識啓発をすすめるとともに、家庭・地域の教育力の向上に取り組まれない。

「一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進」については、0歳児

からのじいろノートや個別指導計画を活用して適切な支援を継続し、支援情報を確実に引き継ぐ仕組みの確立は、保護者にとっても大きな安心に繋がっている。また、長期欠席者や外国人児童生徒を含む生活困窮者の自立支援など、学校の状況に応じた人的配置等を行い、個々に応じてきめ細かく対応していると考えられる。ただ、目標値に対し、実績値が一步手前の部分である状況が見られ、この要因について分析をし、今後の事業展開につなげていただきたい。

「青少年の健全育成と青少年活動の促進」については、各団体との連携は調整の難しい部分がある中で、それぞれの事業開催等に適切な支援がなされている。引き続き、青少年の自立支援や見守り体制の強化に取り組み、合わせて、今後は社会的自立支援の必要な対象数や支援後の動向についての実態把握も大切と考えられる。

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(宮崎つた子氏)

| | 施策の大綱 | 基本施策 | 施策に対する意見 | | 施策の方向 | 区分 | 事業名 | 課グループ名 | 施策の方向(事業)に対する意見 |
|------|---------------------|-------------------------|--|----------|--------------------|-------------------|--------------------------|--|--|
| 施策評価 | 健康で生きがいを持てる暮らしの充実 | 学びによる生きがいの創出 | <p>市民が豊かに学び、それぞれの学びの成果によって、地域社会で活躍することを目指し、地域の学び推進事業を展開されています。市民公民館講座は、多種多様な講座を実施できており、市民一人ひとりが学びを通して新たな生きがいを得るための機会が提供できていると思います。</p> <p>また、デジタル技術を活用した講座も年々増加し、目標値にむけて確実に講座開催数も増やすことができている。このように、誰もが参加できる学びの場を広げ、多彩な講座を実施されたことは高く評価できると思います。</p> <p>亀山市では、「学びのガイドブック」も各家庭に配布されて、「かめやま人キャンパス」について様々な講座案内から、市民の学びたいと思う講座を気軽に受講できるような情報発信にもなっていると思います。</p> <p>図書館については、すでに令和6年10月に入館者数が50万人を超えるなど、後期基本計画の成果指標に設定した23万人を大きく上回っています。この入館者数からも、誰でも利用出来る市民の居場所の空間の創出を図ることができていると思われる。</p> <p>市民アンケートの結果では、いずれも令和2年度調査(現状値)と同等もしくは上昇しており、市民の関心と生涯学習意識が高まっていると思われます。これらは、誰もが参加できる学びの環境として市民向けの多種多様な講座を実施している中央公民館活動推進事業や市民が活躍できる人材の育成事業の取り組みおよび実績値からも施策の方向性は適切に事業展開に結びつくものになっている成果と思われます。今後も、市民に広く周知すると共に市民の学びたいと思う多彩な講座の開講と継続し、地域課題の解決につながることを願っています。</p> | | 地域課題の解決に生かせる学びの展開 | 主要 | 地域の学び推進事業 | 生涯学習課社会教育G | <p>地域の学び推進事業として、誰もが参加できる学びの環境として「中央公民館活動推進事業」では学びの入口として市民向けの多種多様な講座を実施されています。</p> <p>事業の実施状況では、中央公民館活動事業として中央講座の開催が114回、出前教室の開催が88回とその活動実績からもその内容の充実が評価できます。また、「かめやま人キャンパス展開事業」は、3年を1期とした実践的な学習カリキュラムを通して、地域課題に取り組む「かめやま人」の育成および活動支援を行い、キャンパス講座を14回開催されています。</p> <p>生涯学習講座の受講者数は計画値を大幅に超えるなど、その成果は情報発信の方法の工夫、きめ細やかな広報活動、講座内容の充実などの多要素の努力が成果につながっていると高く評価できます。これらからも、地域の学び推進事業として、市民一人ひとりが学びを通して新たな生きがいを得るための機会が提供できていると思います。</p> <p>今後も各講座内容の更なる充実を図っていくなど、魅力ある講座を展開し、広く市民が学べる事業展開を引き続きお願いしたいと思えます。また、毎年認定されるかめやま人育成後のフォローアップやサポート支援を継続していただきながら安定した体制の構築を期待しています。</p> |
| | 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | <p>この施策は、地域での体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所の提供にもなっています。子育てと子どもの成長を支える環境の充実の施策の大綱、その基本施策の子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実においても、「放課後子ども教室」等は、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後を安心・安全に過ごすことができる居場所の提供ができて、地域での子ども体験学習や地域の大人との交流活動などを通じて、地域の中で子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりのため、重要な事業であると思えます。特に、放課後子ども教室に参画した地域ボランティアさんの延べ人数(年間)が目標値(計画値)を超えており、事業目的からも大きな成果だと思えます。しかし、運営に関わる支援者の高齢化や人材不足の課題は否めなく、今後は、数年先も考慮して、多くの地域ボランティアさんの参画を促していただき、運営に関わる人も安心して事業に取り組めるように継続して検討していただけたらと思います。</p> <p>亀山市が令和3年度より市内小中学校全校で開始している「コミュニティ・スクール」は、各学校が地域や保護者等と連携した特色ある学校づくりといえます。また、各学校の実践資料(たよりの発行は、地域や保護者との連携にも繋がっていると思えます。</p> <p>デリバリー給食実施事業は、成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供するため、各家庭のニーズや生徒の嗜好・栄養摂取を考慮した昼食の提供を実施してもらっています。中学校全員喫食制給食実施事業については、物価高騰などの課題等がある中で、努力と工夫を積み重ねられて成果をあげています。</p> <p>児童生徒の学力の向上の目的に、教職員研修を実施して指導力の向上と授業改善を図る取り組みや中学校への運動部支援員を派遣し、教職員の授業準備や研修の時間を確保するなど継続的に実施されています。このように学力向上推進計画を策定し、学力向上に向けた具体的な取り組みは、今後の教職員のさらなる意識改革と個々の教職員の意欲向上にも繋がると考えます。</p> <p>個の学び支援事業では、特別な支援を必要とする児童・生徒が増加している状況が背景にあり、支援が必要な児童・生徒や別室での個別対応が必要な児童・生徒など、支援の内容も多様化しています。そのような中、児童の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する本事業は、インクルーシブ教育の観点からも非常に重要な意味があると思えます。</p> | 事務事業評価 | 学びを支える温かさあふれる学校づくり | 主要 | 放課後子ども教室推進事業 | 生涯学習課社会教育G | <p>「放課後子ども教室」は、全ての就学児童が放課後を地域の中で子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりのため、重要な事業であると思えます。地域で子どもの体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所の提供にもなっています。</p> <p>また、活動実績では、開催回数1,382回、放課後子ども教室に参加した児童の延べ人数(年間)15,797人と目標値(計画値)を超える実績でした。特に、放課後子ども教室に参画した地域ボランティアの延べ人数(年間)は6,321人と目標値(計画値)を大きく超えており、事業目的からも素晴らしい成果だと思えます。ただし、延べ人数での実績のため、特定の地域ボランティアさんの参画による実績であった側面もあり、数年先も考慮して、今後も多くの地域ボランティアさんの参画を促していただき、運営に関わる人の高齢化や人材不足の課題など、引き続き検討をお願いいたします。</p> |
| | | | | | 標準 | 特色ある学校づくり事業(小学校費) | 学校教育課教育支援G | <p>特色ある学校づくり事業では、小学校・中学校ともに、学校運営委員会を中心に特色ある学校づくりを推進されています。特にゲストティーチャーを招いての体験学習などの取り組みは児童・生徒にとって大きな学びの機会になったと思えます。</p> | |
| | | | | | 標準 | 特色ある学校づくり事業(中学校費) | 学校教育課教育支援G | <p>「コミュニティ・スクール」は、各学校が地域や保護者等と連携した特色ある学校づくりといえます。各学校の実践を資料(たよりに)にまとめて発行するなど、各学校運営に対する支援がうかがえます。</p> | |
| | | | | | 標準 | コミュニティスクール推進事業 | 学校教育課学事教職員G | | |
| | | | | 学びの環境の充実 | 主要 | 中学校デリバリー給食実施事業 | 教育総務課保健給食G | <p>デリバリー給食実施事業は、各家庭のニーズや生徒の嗜好・栄養摂取を考慮した昼食の提供を実施してもらっています。心身の成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供するため、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図りながら年間177回の実施が行われました。材料費の高騰が続く厳しい状況の中、新メニューの開発や献立内容の工夫等があり、生徒対象のアンケートにおける肯定的回答の割合も計画値を大きく上回っています。引き続き、生徒が正しい食生活を身に付け、成人しても規則正しい食習慣を自ら行い続けられるように、本事業を継続していただきたいと思えます。</p> | |
| | | | | | 主要 | 中学校全員喫食制給食実施事業 | 教育総務課教育総務G 教育総務課保健給食G | <p>中学校全員喫食制給食実施事業については、予定のスケジュールどおりに計画が実施でき、令和7年度の整備工事に向けての設計業務を完了されています。</p> | |
| | | | | | 標準 | 施設整備費(小学校費) | 教育総務課教育総務G | <p>施設整備に関しては、予定していた改修工事が執行されており、学校生活の環境の向上が図られたと思えます。給食調理員さんへの研修後は作業工程や調理器具の点検がなされています。今後も安心・安全な学校給食の充実のために、研修後に限らず定期的な環境点検、衛生管理行動の徹底などが重要と思えます。</p> | |
| | | | | | 標準 | 地場農畜産物利用推進事業 | 教育総務課保健給食G | | |

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(宮崎つた子氏)

| | 施策の大綱 | 基本施策 | 施策に対する意見 | 施策の方向 | 区分 | 事業名 | 課グループ名 | 施策の方向(事業)に対する意見 |
|----------|---------------------|-------------------------|--|-------------------------|-----------|-------------------|--|--|
| 施策 評価 | 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | <p>亀山市は、0歳児からのにじいろノートの継続活用、個別の指導計画を活用し、適切な支援を継続するとともに、支援情報が確実に引き継がれる仕組みが確立できていることは、保護者にとっても大きな安心に繋がっていると思います。「亀山っ子」市民宣言や亀山市オリジナルの「かめやまお茶の間10選(実践)」などの取り組みは、家庭や地域の意識の醸成になり、地域全体で子どもたちの学びの基礎力・教育力の向上に繋がる重要な活動であると感じています。</p> <p>亀山市の様々な工夫や取り組みを活かし、事業計画の実施や実績値には見えない子ども達の姿を施策の方向性と合わせて丁寧に、そして根気よく確認しながら、子ども達の育ちと学びのために、さらなる取り組みや支援を模索していただきたいと思えます。引き続き、学校・家庭・地域と連携・協力しながら誰ひとり取り残さない学びの展開とその構築に取り組んでいただく事を願っております。</p> | 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | 主要 | GIGAスクール構想推進事業 | 学校教育課教育研究G | GIGAスクール構想推進事業では、国が示したロードマップに沿った環境で、子どもたちの情報活用能力を育成する事業として進めてもらっています。また、亀山市が端末等の更新時期が早かったこともあり、児童生徒が家庭学習におけるタブレット端末の活用も進んだと思います。今後は、現在社会的にも課題になっている情報モラル教育(生成AIの進歩にあった)内容についても、その時代、その年齢の児童生徒にあった内容を吟味しながら強化していく必要があります。子ども達、保護者に対しても適切な取り扱いを示せる準備が学校・教員にも常に注視していくことが必要だと思います。このように、ICTや情報関連のスピードに合わせた正しい活用方法を教授するためにも、新たな視点とスピード感で常に確認・検討を続けていただけるようにお願いいたします。 |
| | | | | | 主要 | 英語教育推進事業 | 学校教育課教育支援G | 英語教育推進事業では、ALT(JET・派遣委託)を5名任用し、各校へ配置することができています。また、生徒の4技能を客観的に把握するための英語試験についても実施されています。英語デイキャンプでは22名の児童が参加するなど、限られた人数でも小学生が楽しく英語に親しむ機会を提供できていると思います。 中学校では、外部試験においてCEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合が目標値には達していないが、昨年度(令和5年度)より実績値は上昇していること、子どもたちの満足度(外国語活動に対する肯定評価の割合)は計画値を大きく上回っていることは成果と言えます。子どもたちが「外国語活動が楽しい」と思えることが次の学習意欲にも繋がります。今後も授業改善と合わせて、生徒自ら「授業が理解できた」と思える取り組みを期待します。 |
| | | | | | 主要 | 個の学び支援事業(小学校) | 学校教育課学事教職員G | 特別な支援を必要とする児童が増加し、その支援内容も多様化していますが、特別支援学級に在籍する児童の学習面、生活面を適切にサポート、支援がなされていると思われれます。また、特別支援学級以外の特別な支援が必要な児童に対しても生活支援員や学習生活相談員等が個別支援ができています。これらは生徒や保護者の安心感にも繋がっており、保護者の満足度が93%と高く、日頃からの支援の成果と高く評価できます。今後は、校内教育支援センターに通う児童の支援も含めて、継続支援をお願いいたします。 |
| | | | | | 主要 | 個の学び支援事業(中学校) | 学校教育課学事教職員G | 特別な支援を必要とする生徒が増加する中、支援の内容も多様化していると思われれます。介助員の配置などの取り組みを行い、生徒の学習面、生活面を支援されています。また、特別支援学級以外の特別な支援が必要な生徒に対しても学習生活相談員が支援するなど個別対応が行えたことは、生徒や保護者の安心感にも繋がっていると思えます。 |
| | | | | | 標準 | 体育・文化活動支援事業(小学校費) | 学校教育課教育支援G | 体育・文化活動支援事業、体育・文化活動支援事業、中学校体験活動支援事業、道徳・人権教育推進事業等ともに目的にそった事業が実施できていると思います。幼児教育推進事業では、保幼認と小間での情報共有は、就学前からの切れ目のない教育支援として重要であり、亀山市のきめ細やかな支援体制の大きな特徴ともいえると思えます。教職員研修事業では、基礎研修6回、教育課程別研修15回、授業力向上研修を6回と多くの研修を実施されています。実施回数にとどまらず、研修後の個々の教員の授業力向上の自己分析などと合わせて総合的に評価をしていくことが児童・生徒の学力向上のためにも重要と思えます。 |
| | | | | | 標準 | 体育・文化活動支援事業(中学校費) | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | 標準 | 中学校体験活動支援事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | | | | 標準 | 幼児教育推進事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | 標準 | 教職員研修事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | | | | 標準 | 道徳・人権教育推進事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | | 家庭・地域の教育力の向上 | 標準 | 子育て学習展開事業 | 生涯学習課社会教育G | 保育園等では家庭教育出前講座など、保護者に対して学びの機会を提供できています。このような出前講座は、子どもの育ちを、家庭、行政とともに地域で支える支援事業に繋がっています。また、亀山市では、子どもと保護者(家庭)に対して「かめやまお茶の間10選(実践)」等を通して家庭や地域の意識の醸成をはかり、地域全体で子どもたちの学びの基礎力・教育力の向上に繋がる取り組みを継続されていると思えます。 | |

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(宮崎つた子氏)

| | 施策の大綱 | 基本施策 | 施策に対する意見 | | 施策の方向 | 区分 | 事業名 | 課グループ名 | 施策の方向(事業)に対する意見 |
|----------|---------------------|-------------------------|----------|----------------|------------------------|----|---------------------|-------------|--|
| 施策 評価 | 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | 事務 事業 評価 | 一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | 主要 | 学力向上推進事業 | 学校教育課教育支援G | 教職員への研修会の他、教職員経験の浅い教員への研修機会を計画・実施されています。国語科共通テスト等の実施では、小3～小6の単元ごとに共通テストを作成し各校当該学年で実施されています。運動部活動支援員として5名の登録があり、累計313回実施するなど、指導力の向上と授業改善につなげる取り組みが実施されており、計画値を上回っています。 このように、教職員への学力向上研修会の開催や運動部支援員を派遣し教職員の時間を確保したこと、「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディ・チェック」の結果を分析・報告は、各校および個々の教職員の意欲向上のためにも重要だと思えます。しかし、全国学力・学習状況調査の正答率は、全国平均を下回っており、学校での授業を理解している子どもの割合も計画値に達していません。これらは、教員の授業力向上だけでは解決できない様々な課題要因があるように感じています。児童・生徒自身が主体的に学力向上に繋がる様々な影響要因も合わせて検討していくことが大切だと思えます。地域の図書館や学校図書館の活用、日常生活の中で本に親しんだり、人の話を聞けるなど、「確かな学力」の向上を目指して、引き続き学校、家庭、地域と連携を取りながら、あらゆる側面からの学習支援活動をお願いしたいと思います。 |
| | | | | | | 主要 | 学校図書館支援事業 | 学校教育課教育支援G | 学校図書館支援事業では、年度計画に沿って、学校図書館情報システムの運用・管理や学校司書6名を全ての小中学校に配置、図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1,2回程度、14校に計168日派遣もされています。さらに、読書リレーを幼稚園4園と小学校低学年を対象に、2学期に10週間程度実施したほか、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園、全小学校で実施されたことは評価できます。しかし、昨年度から新たな取り組みや具体的な改善内容が不明確です。配置数や活動実績数で、児童・生徒の主体的な読書習慣の確立につながっていると判断せずに、(現状維持でとどまらず)引き続き、啓発に取り組んでいただきたい。現代の活字離れの子も達に、どのように向き合っていくか、是非、次年度に向けて検討していただきたいと思えます。この取り組みが、近い将来の学力向上推進事業の「読む力」にも大きく影響していく可能性があるため、学校と家庭、地域と連携を取りながらあらゆる側面からの支援をお願いしたいと思います。 |
| | | | | | | 主要 | 生活困窮者自立支援事業(学習支援事業) | 学校教育課教育支援G | 生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)では、中学3年生の受講者が希望進路に進むことができたことは高く評価できます。しかし、継続して参加している生徒は一定数おり、限られた生徒の参加になっている可能性もあります。生徒の進路保障に繋げるためにも保護者への丁寧な説明と生徒自身の学習意欲がもてるように継続して支援をお願いします。 |
| | | | | | | 主要 | 少人数教育推進事業 | 学校教育課学事教職員G | 少人数教育推進事業においては、少人数教育推進教員として、常勤講師2名、非常勤講師を2名を配置され、過密学級は解消されて、その推進も図ることができていると思えます。経験の浅い講師の任用も増加傾向にあることから、これらの講師への精神的な不安軽減も教育支援も継続していくことが大切と思われま。 |
| | | | | | | 主要 | 校務支援システム事業 | 学校教育課学事教職員G | 校務支援システム事業では、教職員の業務の軽減と効率化、教職員が児童生徒と向き合う時間や、教材研究の時間を確保することを目指していますが、教職員一人あたりの総勤務時間の削減時間(令和3年度比較)の目標値は達成されておらず、増加しています。しかし、これらは個別の生徒指導や保護者対応を丁寧に行っていた結果とも言えます。日常的な業務の効率化としての安定した成果(効果)を目指すと共に、現状の丁寧な指導や相談対応も大切にしていきたいと思えます。 |
| | | | | | | 標準 | 適応指導教室事業 | 学校教育課教育研究G | 適応指導教室事業では、児童生徒と保護者への相談を行ったり、子どもの居場所づくりのために「かめっ子サポート」と連携がなされています。不登校児童・生徒の問題は様々な背景や要因があるため、引き続き丁寧な対応と関係者との連携をお願いいたします。 |
| | | | | | | 標準 | 生徒指導充実事業 | 学校教育課教育研究G | 生徒指導充実事業では、カウンセラーやワーカーとの連携など、適切に事業運営・実施がなされています。生徒の問題行動が複雑化・多様化してきております。個々の児童生徒の実態把握や問題行動の予防と対策を図るためにも、児童・生徒の心のケアや関係機関と連携しながら、実際の不登校児童生徒数やいじめの実態把握等と合わせて事業評価をしていくことが大切と思えます。 |
| | | | | | | 標準 | 特別支援教育推進事業 | 学校教育課教育研究G | 特別支援教育推進事業では、増え続ける発達障がいや様々な基礎疾患および慢性疾患の障がい児に対して、個別対応など適切に事業運営・実施がなされています。特に亀山市教育支援委員会を年間4回開催する以外にも関係部署との連携をしながら総合的に支援され、就学先の決定を行っていることは、他市にからも注目されています。 |
| | | | | | | 標準 | 外国人児童生徒教育支援事業 | 学校教育課教育支援G | 外国人児童生徒教育支援事業においては、適切通訳の配置や翻訳サポートに加え、就学前に学校生活を体験する「プレスクール」などは、児童と保護者にとって安心に繋がる効果的な取り組みと思われま。また対象生徒の希望進路に繋がっていることは各担任の日々の関りや学校の支援体制として高く評価できます。 |

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(宮崎つた子氏)

| | 施策の大綱 | 基本施策 | 施策に対する意見 | | 施策の方向 | 区分 | 事業名 | 課グループ名 | 施策の方向(事業)に対する意見 |
|----------|---------------------|-------------------------|----------|----------|-------------------|------------|----------|------------|--|
| 施策 評価 | 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | 事業 評価 | 青少年の健全育成と青少年活動の促進 | 標準 | 青少年健全育成費 | 生涯学習課社会教育G | 青少年健全育成、二十歳の集い開催は適切な事業開催等の支援として実施がなされていると思います。青少年自立支援事業においては、地域、学校など関係機関と連携した活動により、青少年に対する支援を推進できていると思います。今後は、社会的自立支援の必要な対象数や支援後の動向についても実態把握が大切と思われます。 |
| | 標準 | 青少年総合支援センター費 | | | | 生涯学習課社会教育G | | | |
| 標準 | 二十歳の集い開催費 | 生涯学習課社会教育G | | | | | | | |
| | 市民力・地域力の活性化 | 市民参画・交流活動の促進と協働の推進 | | | 市民活動の活性化と協働の推進 | 標準 | 婦人団体育成費 | 生涯学習課社会教育G | 現状の取り組みについては評価できます。引き続き、女性の活動の場や家庭生活の向上を図るための関係団体の支援をお願いします。 |

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(辻 宣久氏)

| | 施策の大綱 | 基本施策 | 施策に対する意見 | 施策の方向 | 区分 | 事業名 | 課グループ名 | 施策の方向(事業)に対する意見 |
|------|---------------------|-------------------------|---|---|---|--|---|--|
| 施策評価 | 健康で生きがいを持てる暮らしの充実 | 学びによる生きがいの創出 | <p>【①地域課題の解決に生かせる学びの展開】</p> <p>【③誰もが学べる環境づくり】</p> <p>成果指標である「デジタル技術を活用した講座の開催数」見ると、目標値の20に向け、令和4年度から順調にその実績値を伸ばしていることから、「中央公民館活動事業」において、地域のニーズに沿った講座が実施され、市民の自発的な学びにつながる事ができていることが推察されます。</p> <p>第2期のかめやま人キャンパス展開事業での「Youtube Liveなどのデジタル技術を活用した講座の実施、「誰もが参加できる学びの場の提供」などが、地域のデジタル化の促進や地域課題の解決に取り組む人材の掘り起こしに寄与したと評価できるのではないかと考えます。</p> <p>【②新図書館を核とした読書活動・市民活動の推進】</p> <p>図書館関連事業については、成果指標である「図書館入館者数」は新図書館になってから、目標値を大きく上回っていることから、読書活動や市民の交流が促進されていることが見て取れます。基本理念の「学びの場からつながる場へ」という基本理念についても図書館の存在が活発な市民交流の場として機能していることから、子どもたちの読書習慣の定着につながっていると評価されます。</p> <p>市民アンケートの項目を見ると、1～3のどの項目においても重要度は高い数値を示している一方、満足度については高いとはいえない状況が続いていることから、市民の多様なニーズを的確に把握しつつ、それに応える新たな講座の開設および既存講座の展開、小中学校および高等学校との連携の強化、市民の生涯学習に対する意識の向上に向けた取組や施策をさらに進められたい。</p> | 地域課題の解決に生かせる学びの展開 | 主要 | 地域の学び推進事業 | 生涯学習課社会教育G | <p>市民一人ひとりが学びや生きがいを得られるよう、かめやま人キャンパス講座や中央公民館講座が継続して実施され、新たにYoutube Live等のデジタル技術を活用した講座も実施されたことで、地域における学びの機会の提供ができていくことがわかります。</p> <p>第1期かめやま人認定者に対して、フォローアップ講座を実施し、中央公民館講座等の講師や行政委員として登用するなどの支援については、今後の事業展開につながるきっかけであると考えます。</p> <p>それぞれの開設講座を実施する中で、各講座受講者数と受講者アンケート結果等により、より重要度と満足度が高まるよう精査され、改善されることを期待しています。</p> |
| | 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | <p>【①学びを支える温かさあふれる学校づくり】</p> <p>学校運営協議会が組織としてしっかり機能しており、保護者や地域住民等が学校運営に参画し、学校づくりが円滑に進められていることが成果指標の実績値(目標値)から推察されます。また、学校運営にかかる「たより」も発行されていることから、その活動内容が周知され、学校運営協議会を中心に学校と地域との連携・協働が進んでいることが認められます。引き続き、地域や学校の特色をいかした安心して学べる環境づくりが、進むよう取り組まれたい。</p> <p>【②学びの環境の充実】「関小中学校トイレの洋式化改修」、「亀山西小学校防犯カメラの改修」、「2中学校への配膳室や給食用エレベーター」等、予定していた工事や整備がなされ、学校生活環境の向上が図られました。</p> <p>また、「中学校デリバリー給食」や市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」についても、目標回数を達成できているということで、学びの環境の充実に向け、整備内容等の検討、環境整備の着実な進捗を図られたい。</p> <p>【③希望を持って新しい時代に活躍できる子どもの育成】</p> <p>10の関連事業において、児童生徒が確かな学力を身につけ、新しい時代に必要とされる生きる力を身につけるための保幼認小連携による段差の少ない教育に取り組むとともに、教職員研修の実施や学校図書館の充実、一人一台端末の活用等により、児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業改善が図られたと評価されています。教職員研修事業については、児童生徒の育成に直結するものであり、めまぐるしく変化する時代や社会情勢に適応するためにもさらなる充実を望みます。</p> | <p>学びを支える温かさあふれる学校づくり</p> <p>学びの環境の充実</p> | <p>主要</p> <p>標準</p> <p>標準</p> <p>標準</p> <p>主要</p> <p>主要</p> <p>標準</p> <p>標準</p> | <p>放課後子ども教室推進事業</p> <p>特色ある学校づくり事業(小学校費)</p> <p>特色ある学校づくり事業(中学校費)</p> <p>コミュニティスクール推進事業</p> <p>中学校デリバリー給食実施事業</p> <p>中学校全員喫食制給食実施事業</p> <p>施設整備費(小学校費)</p> <p>地場農畜産物利用推進事業</p> | <p>生涯学習課社会教育G</p> <p>学校教育課教育支援G</p> <p>学校教育課教育支援G</p> <p>学校教育課学事教職員G</p> <p>教育総務課保健給食G</p> <p>教育総務課教育総務G 教育総務課保健給食G</p> <p>教育総務課教育総務G</p> <p>教育総務課保健給食G</p> | <p>各小学校内でインフルエンザ等の感染症による学級閉鎖等による一部中止となった放課後子ども教室もあったようですが、全ての小学校区において概ね計画どおりに実施できたことで、地域の子どもたちが安心して過ごすことができる居場所づくりができたことは評価できます。</p> <p>今後も目的達成のために、全ての小学校区コーディネーター間での意見交換・情報交換をはじめ、各団体等の協力や各種地域活動等での情報収集等、粘り強く地域ボランティアの人材確保に努めていただきたい。</p> <p>学校運営委員会を中心に地域や学校ならではの創意工夫がなされ、ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上など取り組みにより、各学校で成果をあげられていることが確認できます。今後も引き続き取り組みを継続されて学校教育の改善を推進していただきたい。</p> <p>またコミュニティスクール推進事業では、保護者や地域住民等が学校運営に参画される学校運営協議会を定期的に開催し、活動内容をたよりにて周知されるなど、地域に開かれた信頼される学校となるよう取り組まれています。今後も学校運営や学校支援への協力体制が機能するよう、教育委員会の支援を引き続きお願いします。</p> <p>中学校デリバリー給食実施事業では、栄養バランスを考慮した昼食を提供され、生徒対象のアンケート結果をふまえた新メニュー開発と満足度を維持されていることから評価できます。</p> <p>中学校全員喫食制給食実施事業では、令和8年度の開始に向け亀山市中学校給食調理等業務委託業者選定委員会において選定業者と委託契約を締結したということで、2中学校の施設整備に向け、着実に進めていただきたい。また、物価高騰の中で生徒の満足度や要望を満たしていくことは大変ですが、保護者の理解協力を得ながら給食利用者満足度が高まるよう、地場農産物の利用、安全な衛生管理を意識しながら、引き続き献立改善をお願いします。</p> |

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(辻 宣久氏)

| 施策の大綱 | 基本施策 | 施策に対する意見 | 施策の方向 | 区分 | 事業名 | 課グループ名 | 施策の方向(事業)に対する意見 | |
|--------------|---------------------|-------------------------|--|-------------------------|------------|--|-----------------|---|
| 施策評価 | 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | 【④家庭・地域の教育力の向上】 「かめやまお茶の間10選(実践)」の継続的な取組については、家庭のみならず地域全体での子ども育みつながりつつあるとのことで、引き続き家庭教育の重要性について意識啓発をすすめるとともに、家庭・地域の教育力の向上に取り組まれない。 【⑤一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進】 これまでどおり、特別な支援を必要とする児童生徒をはじめ、長期欠席者や外国人児童生徒を含む生活困窮者の自立支援など、学校の状況に応じて人的配置等をし、個々に応じてきめ細かく対応していただいているところです。学校評価アンケートでは、各指標において目標値に対し、実績値が一手前前で足踏みしている状況が見られます。この要因について分析をし、今後の各事業展開につなげていただくことを期待します。 【⑥青少年の健全育成と青少年活動の促進】 市民団体などと協力・連携をしながら、体験活動の場などを復活させたということで、各団体等との連携については日程や人的要素などさまざまな条件があり、調整の難しいところもありますが、青少年の自立支援や見守り体制の強化のため、引き続き取り組まれない。 成果指標については、目標値に近づけば近づくほど、実績値の伸びが鈍くなるため、目標値に向けどのような工夫や仕掛けをしていくかは大きな課題だと考えます。 また、市民アンケート結果の1～3の項目についても、重要度の高さと満足度との乖離が見られることから、市民への施策や事業への取り組みについての周知方法や広報のあり方なども検討されたい。 | 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | 主要 | GIGAスクール構想推進事業 | 学校教育課教育研究G | GIGAスクール構想推進事業について、情報機器等の環境整備を計画的に行っていたことで、教職員のICT活用スキルが向上し、生徒の情報活用能力が高まり、タブレット端末を学習場面で普段使いできる生徒が多くなっているが確認されます。 並行して取り組むべき課題は、人権教育や生徒指導上で問題となっているSNS利用方法を含めた新たな課題に対応する情報モラル教育を推進するとともに、最新の生成AI利用に関するガイドランにもとづく指導も併せて必要であると考えます。 英語教育推進事業について、ALTを5名配置して授業や休み時間でネイティブな英語に触れる機会を設けたり、英語キャンプを実施して英語に親しむ機会を設けたりして取り組まれていることが評価できます。継続して取り組むことで活動が周知されて希望者が増えていくことが期待されます。また、児童生徒の英語力を的確に把握し、その結果が授業改善・学力の定着につながることを望みます。 個の学び支援事業では、特別な支援を必要とする児童生徒が安心して安全に自立した学校生活を送ることができるよう、学校の状況に応じて介助員、生活支援員、学習生活相談員や看護師を適切に配置され、個別の指導計画等の支援情報が適切に引継ぎされていることは評価できます。特別な支援を必要とする生徒が増加している中、支援を必要とする生徒の保護者の不満要因や声を受け止め、切れ目ない支援体制の確立にむけて今後もさらに教育委員会としてご尽力いただきたいと考えます。 体育・文化活動支援事業では、専門家による合唱指導等の文化公演や、体力向上をめざして外部講師を各学校へ派遣するなど、体育・文化活動へ支援していただきました。また中学校体験活動支援事業では、中学生の就労体験を通して社会性などの健全育成にむけて各校において取り組まれました。心の働きを豊かにする情操教育や体力向上に向けた支援は、より重要となっておりますので今後も支援を継続して充実させていきたいです。 幼児教育推進事業では、保幼認・小間の切れ目のない教育を目指した支援体制を整えられています。保幼認・小間の交流活動をさらに進め、今後も社会的包摂の視点をもって積極的な情報交換と教職員の育成を期待します。 道徳・人権教育推進事業では、差別事象の把握や人権・道徳にかかわる学校への助言や人権研修会の実施などにより、子どもたちにお互いを尊重し、多様性を認め合うことができるようになったことが確認されています。今後も、学校における人権教育等に関する指導方法の改善とともに教職員の人権に対する意識を向上させ、人権教育のさらなる推進を図られたい。 |
| | | | | | 主要 | 英語教育推進事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | 主要 | 個の学び支援事業(小学校) | 学校教育課学事教職員G | |
| | | | | | 主要 | 個の学び支援事業(中学校) | 学校教育課学事教職員G | |
| | | | | | 標準 | 体育・文化活動支援事業(小学校費) | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | 標準 | 体育・文化活動支援事業(中学校費) | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | 標準 | 中学校体験活動支援事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | | | | 標準 | 幼児教育推進事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | 標準 | 教職員研修事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | | | | 標準 | 道徳・人権教育推進事業 | 学校教育課教育研究G | |
| 家庭・地域の教育力の向上 | | | 標準 | 子育て学習展開事業 | 生涯学習課社会教育G | 子育て学習展開事業では、家庭・地域の教育力を向上させるための保育園等における保護者対象の家庭教育の出前講座に取り組みは、参加した保護者にとっては心の支えや子育てへのヒントを得るよい機会になったと考えられます。 「子育て」に関する学びを保護者に提供するとともに、子どもを見守る祖父母世代が地域全体で支えていく学びの仕組みづくりは、これからの子育てに関する在り方として大切なことと考えます。 | | |

教育委員会の事務に関する点検・評価 意見記入シート(辻 宣久氏)

| 施策の大綱 | | 基本施策 | 施策に対する意見 | 施策の方向 | 区分 | 事業名 | 課グループ名 | 施策の方向(事業)に対する意見 |
|----------|---------------------|-------------------------|----------|------------------------|--------------|---------------------|-------------|--|
| 施策 評価 | 子育てと子どもの成長を支える環境の充実 | 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実 | | 一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進 | 主要 | 学力向上推進事業 | 学校教育課教育支援G | <p>学力向上推進事業では、学力向上推進計画第4版の取組が着実に進められ、担当者会やステップアップ研修会等で教職員の指導力の向上と授業改善が行われ、児童生徒の学力の向上と定着につながりつつあることがわかります。教育活動の成果は一朝一夕で反映されるものではなく、また、数値等に現れたものがすべてではないことから、常に結果に対する課題を分析し、継続的に工夫や改善策を講じていくことが大切ですので、実績値の増減に対する分析と、新たな改善取組が必要となってくると考えます。</p> <p>学校図書館支援事業では、子どもたちの読書離れが懸念されている中、昨年度同様に全小中学校に図書館司書や図書館アドバイザーを配置し、幼稚園・小学校で読書リレーや読書チャレンジの取組を実施した結果、どの指標においても昨年度を上回るものとなったことは評価できます。児童生徒の読書数は学校差や個人差があることをふまえ、日常の教育活動の中で、読書を推進する取組を意図的に展開するなど、総力を挙げてあらゆる場面での取組を進められたい。</p> <p>生活困窮者自立支援事業では、対象者を長期欠席者や外国人児童生徒まで拡大し、土曜日の通常開催に加えてテスト対策教室、体験教室など、手厚く自立支援を行っていることは評価できます。さらに主体的に進路選択できる力が必要となる児童生徒に対しては、その家庭への参加理解協力を促す案内や啓発に引き続き取り組まれない。</p> <p>少人数教育推進事業では、過密学級を解消するために小中学校に講師を配置し、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を実現されています。国の学級編成基準に照らし、小学校については、目標が達成されたこととなりますが、教職員の適正配置については、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな支援・指導をすすめるためにも別の事業における展開も考えられたい。</p> <p>校務支援システム事業では、「年間総勤務時間数の削減」の実績値が2年続けてマイナスとなり、また削減時間数も減っているのは気になることですが、逆にその時間が生徒指導や保護者対応に充てられているということで、これまで以上に校務支援システムの果たす役割や期待が大きくなっていることの裏返しと捉えれば、次年度以降さらなる工夫や仕掛け、システムの改善が必要になると考えます。</p> <p>その他、標準事業である適応指導教室事業、生徒指導充実事業、特別支援教育推進事業、外国人児童生徒教育支援事業では、それぞれの対象となる児童生徒のみならず、保護者への支援もきめ細かく行っていただいで評価できます。今後も一人ひとりの児童生徒を多角的な視野で見つめ、関係者が連携して保護者を含めた支援をしていただけることを期待します。</p> |
| | | | | | 主要 | 学校図書館支援事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | 主要 | 生活困窮者自立支援事業(学習支援事業) | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | 主要 | 少人数教育推進事業 | 学校教育課学事教職員G | |
| | | | | | 主要 | 校務支援システム事業 | 学校教育課学事教職員G | |
| | | | | | 標準 | 適応指導教室事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | | | | 標準 | 生徒指導充実事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | | | | 標準 | 特別支援教育推進事業 | 学校教育課教育研究G | |
| | | | | | 標準 | 外国人児童生徒教育支援事業 | 学校教育課教育支援G | |
| | | | | | | | | |
| | | | | 標準 | 青少年総合支援センター費 | 生涯学習課社会教育G | | |
| | | | | 標準 | 二十歳の集い開催費 | 生涯学習課社会教育G | | |
| | 市民力・地域力の活性化 | 市民参画・交流活動の促進と協働の推進 | | 市民活動の活性化と協働の推進 | 標準 | 婦人団体育成費 | 生涯学習課社会教育G | <p>婦人団体育成費では、女性の活躍の場や家庭生活の向上を図るための活動において、「なでしこ健康フェスティバル」を開催して心身の健康づくりや交流親睦を図られたり、明るく住みよいまちづくりや地域に根差したボランティア活動に取り組まれたりして、市民参画交流活動に寄与されていることを評価します。</p> |

5 課題と今後の取組

学識経験者による評価を踏まえ、令和6年度における第2次亀山市総合計画後期基本計画に基づく施策及び各種事業について、課題と今後の取組を次のとおりまとめました。

| 施策の方向 | 事業名 |
|-----------------------|-----------|
| 地域課題の解決に生かせる 学びの展開 | 地域の学び推進事業 |

【課題】

今後も高等教育機関と連携等を図りつつ、各講座内容の更なる充実と多種多様な講座の継続を図っていく必要があります。また、認定されたかめやま人のフォローアップやサポート支援を継続し、安定した体制の構築を行う必要があります。

総じて、各講座受講者数と受講者アンケート結果等により、より重要度と満足度が高まるよう精査し、改善していくことが重要です。

【今後の取組】

情報発信の方法の工夫、きめ細やかな広報活動を行いつつ、行政関連部署や各関係団体等との連携し、引き続き、市民向けの多種多様な講座の開催や展開を図ります。また、かめやま人認定者については、中央公民館講座等の講師や行政委員への登用などを含め、フォローアップを継続的に行います。

| 施策の方向 | 事業名 |
|------------------------|------------------------|
| 学びを支える温かさあふれる 学校づくり | 放課後子ども教室推進事業 |
| | (標) 特色ある学校づくり事業 (小学校費) |
| | (標) 特色ある学校づくり事業 (中学校費) |
| | (標) コミュニティスクール推進事業 |

【課題】

放課後子ども教室推進事業については、特定の地域ボランティアの参画による実績である側面も否めず、小学校区コーディネーター間での意見交換・情報交換や各種地域活動等での情報収集を行いつつ、今後も多くの方の参画を促し、一方では運営に関わる人の高齢化等を含め、どのように人材を確保していくかを検討していく必要があります。

また、学校運営協議会を中心に保護者及び地域住民等が学校運営に参画することにより、創意工夫した特色ある学校づくりがなされている中で、それらの取組を継続するとともに、学校教育の充実を図り、地域に開かれた信頼される学校づくりが求められます。

【今後の取組】

放課後子ども教室推進事業については、引き続き、地域一体となって子どもが安全・安心に育まれる居場所づくりの充実を図るとともに、各校のコーディネーターの交流が可能な場を設けて、それぞれの運営にかかる人材確保等に必要な情報共有に努めます。

また、特色ある学校づくりとして、体験学習活動や学力向上など多岐にわたる取組等、必要に応じて改善しつつ、それぞれの事業を継続します。

| 施策の方向 | 事業名 |
|----------|--------------------------------------|
| 学びの環境の充実 | 中学校デリバリー給食実施事業 |
| | 中学校全員喫食制給食実施事業 |
| | (標) 施設整備費 (小学校費) (標) 地場農畜産物利用推進事業 |

【課題】

中学校デリバリー給食については、材料費の高騰が続く厳しい状況の中、新メニューの開発や献立内容の工夫等も見受けられ、アンケート結果も肯定的な回答の割合が多い状況であり、栄養バランスを考慮した献立内容の改善が求められます。

中学校全員喫食制給食実施事業についても、同様に材料費高騰の中で、給食利用者満足度が高まるよう、地場農産物の利用、安全な衛生管理を意識し、安全安心な給食提供を行う必要があります。また、工事の施工にあたっては学校の運用面への配慮を行い、あわせて学校内での衛生に配慮した配膳や後片付け、給食指導等の研修や環境整備を進める必要があります。

【今後の取組】

中学校デリバリー給食については、材料費の高騰に対応しながら、アンケート結果を活用し、新メニューの導入と併せて献立内容の改善を進めます。

中学校全員喫食制給食実施事業については、安全安心な給食実施に向け諸準備を進め、地産地消による食育の推進に努めます。また、工事の施工の際には、学校運営に支障が無いよう週1回程度の定例会議を設け、関係者間での速やかな情報共有、スケジュール管理を行います。加えて、調理・配送面等において委託業者等と更なる協議や2中学校における給食指導等の環境整備を進めます。

| 施策の方向 | 事業名 |
|-------------------------|---|
| 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成 | G I G Aスクール構想推進事業 |
| | 英語教育推進事業 |
| | 個の学び支援事業（小学校） |
| | 個の学び支援事業（中学校） |
| | （標）体育・文化活動支援事業（小学校費） |
| | （標）体育・文化活動支援事業（中学校費） |
| | （標）中学校体験活動支援事業 （標）幼児教育推進事業 （標）教職員研修事業 （標）道徳・人権教育推進事業 |

【課題】

G I G Aスクール構想推進事業については、人権教育や生徒指導上で問題となるSNS利用方法や、社会的にも課題になっている情報モラル教育（生成A Iの進歩にあった）の内容について、その時代、その年齢の児童生徒にあった内容をみつつ、新たな視点とスピード感で常に確認・検討を行い、強化していく必要があります。

英語教育推進事業については、CEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合が目標値には達していない状況があるものの、満足度は計画値を大きく上回っており、子どもの学習意欲に繋がるよう、引き続きの取組が必要です。また、児童生徒の英語力の詳しい実態を把握し、その結果を以て、魅力ある授業づくりをするための研修会の実施等を含め、授業改善・学力の定着に繋がるよう努める必要があります。

個の学び支援事業については、児童の学習面、生活面の適切になサポート・支援、生活支援員や学習生活相談員等による個別支援が適切になされています。今後は、特別な支援を必要とする生徒が増加している中、校内教育支援センターに通う児童の支援も含め、支援を必要とする生徒の保護者の不満要因や声を受け止め、切れ目ない支援体制の確立にむけて努める必要があります。

【今後の取組】

G I G Aスクール構想推進事業については、G I G Aスクール構想のロードマップに沿い、I C T環境整備を適切に実施するとともに、I C Tの活用を通じた学びの向上に向け、必要な改善・見直しを行います。

英語教育推進事業については、児童生徒が総合的な英語力を身に付けられるよう、単元ごとの評価を実施し、児童生徒の英語力を詳しく把握するとともに、A L Tと連携した授業作りや評価に関する研修を行うとともに、必要に応じて改善・見直しを行います。

個の学び支援事業については、介助員、校内教育支援センター支援員、看護師の人材確保に努め、支援体制の充実を図ります。また、個々の児童の実態把握、必要な支援の検討を行い、9年間を見通した目標設定を行い、多様な学びに対応した支援を行います。

| 施策の方向 | 事業名 |
|--------------|---------------|
| 家庭・地域の教育力の向上 | (標) 子育て学習展開事業 |

【課題】

「子育て」に関する学びを保護者に提供するとともに、「かめやまお茶の間10選（実践）」等を通じた家庭や地域の意識醸成をはかり、子どもを見守る祖父母世代を含めた地域全体で子どもたちの学びの基礎力・教育力の向上に繋がる取組を継続する必要があります。

【今後の取組】

子育て中の保護者に対する意識啓発のため、家庭教育出前講座の充実を図るとともに、子育て家庭に向けた応援メッセージ「かめやまお茶の間10選（実践）」のさらなる定着、浸透を図ります。

| 施策の方向 | 事業名 |
|----------------------------|---------------------|
| 一人ひとりの学びを支える きめ細かな教育の推進 | 学力向上推進事業 |
| | 学校図書館支援事業 |
| | 生活困窮者自立支援事業（学習支援事業） |
| | 少人数教育推進事業 |
| | 校務支援システム事業 |
| | (標) 適応指導教室事業 |
| | (標) 生徒指導充実事業 |
| (標) 特別支援教育推進事業 | |
| (標) 外国人児童生徒教育支援事業 | |

【課題】

学力向上推進事業については、全国学力・学習状況調査の正答率が全国平均を下回っており、学校での授業を理解している子どもの割合も計画値に達していません。児童・生徒自身が主体的に学力向上に繋がる様々な影響要因も合わせて検討しつつ、「確かな学力」の向上を目指して、継続的に工夫や改善策を講じていくことが大切であり、学力向上推進計画の見直しや児童生徒の個別最適な学びに対応した学習教材の整備等も求められます。

学校図書館支援事業については、児童生徒の読書数には学校差や個人差がある中で、現状維持でとどまらず、配置数や活動実績数で、児童生徒の主体的な読書習慣の確立につながっていると判断せずに、引き続き児童生徒や家庭に多様な図書館活用方法や貸出方法を周知・啓発していく必要があります。近い将来の学力向上推進事業の「読む力」にも大きく影響していく可能性があるため、学校と家庭、地域と連携を取りながらあらゆる側面からの支援を検討する必要があります。

生活困窮者自立支援事業については、継続して参加している生徒が一定数いて

限られた生徒の参加になっている可能性があるため、生徒の進路保障に繋げるためにも、その家庭への理解協力を促す丁寧な案内や啓発、生徒自身の学習意欲がもてるよう継続した支援に取り組む必要があります。また、講師スタッフの高齢化が進み、講師の数も減少しており、その人員確保が必要となっています。

少人数教育推進事業については、過密学級の解消と少人数指導の推進に向け、生徒数に応じた必要な教員数を確保する必要があります。その中で、経験の浅い講師の任用も増加傾向にあることから、これらの講師への精神的な不安軽減や教育支援も継続していくことが大切となります。

校務支援システム事業については、教職員一人あたりの総勤務時間の削減時間が増加しています。しかし、これらは個別の生徒指導や保護者対応を丁寧に行った結果とも言える中で、これまで以上に校務支援システムの果たす役割や期待が大きくなり、日常的な業務の効率化としての安定した成果を目指すと共に、次年度以降さらなる工夫や仕掛け、システムの改善等が必要となります。

【今後の取組】

学力向上推進事業については、学力向上強化週間として「Kameyama Study Week」の実施や亀ハタドリルの対象児童生徒への毎月実施を継続するなどの改善策を講じるとともに、必要に応じて教職員の指導力向上と授業改善に向けた措置を講じます。また、児童生徒の学習課題を明確にした「学力向上推進計画第5版」を策定します。

学校図書館支援事業については、児童生徒の読書習慣の確立や読書の質の向上に向け、学校図書館アドバイザーを派遣し、図書館利用促進のための読書指導や調べ方学習指導などの教職員向け研修会の内容等を継続的に充実させます。また、読書の幅を広げるため、相互貸借や電子図書館の利用を促進します。

生活困窮者自立支援事業については、利用者のニーズや学び方の多様化に対応するために、学習支援の在り方を再考し、構築するとともに、必要な人員確保に努めます。

少人数教育推進事業については、引き続き必要な人員確保に努める中で、今後は、国や県からの加配を活用し、児童・生徒一人ひとりに応じたきめ細かな支援・指導の更なる充実を図るため、本事業は廃止する方針となっています。

校務支援システム事業については、システムの活用による成果や効果及び課題を教職員アンケート等により把握できるようにし、また活用事例等を市内小中学校で共有するなど、業務の効率化を図ります。

| 施策の方向 | 事業名 |
|-------------------|---|
| 青少年の健全育成と青少年活動の促進 | (標) 青少年健全育成費 (標) 青少年総合支援センター費 (標) 二十歳の集い開催費 |

【課題】

青少年健全育成、二十歳の集いの開催、青少年自立支援等、適切な事業にかかる支援がなされている中で、この協力体制が維持されるよう継続的に取組を行うとともに、今後は、社会的自立支援の必要な対象数や支援後の動向についての実態把握が必要となります。

【今後の取組】

青少年育成市民会議などの社会教育団体による取組等については、引き続きの事業サポートを行い、青少年が安全かつ心豊かに成長できる社会環境づくりに努めます。

